



服部文庫
117
449
#1



117
449
1

● 伊目錄

色 色号 色好 色衣 伊呂波 岩
 峯 窟 岩橋 岩舟 岩枕 石裂神
 石見 祝 結肌茅 幼稚 古 庵
 系 心 遊糸 糸竹 市 抵
 逸 師 入日 入口 入相 入海 入夕 破
 大 乾 魚 井 恒 代 旋 雷 箭
 板 百 板 登 板 友 板 枕 虎 杖 勞 竭
 板 急 五 十 伊 豆 知 市 和 泉 泉
 美 泉 偽 安 宮 壁 生 字 福 福 友
 福 妻 福 目 福 負 香 楚 尾 命 利
 軍 五 十 串 今 股 道 池 放生 溫泉
 漢 生 死 生 靈 生 須 玉 忌 午 石
 礎 碑 石 橋 石 占 石 火 石 床
 替 鐵 家 家 出 家 風 城 飯

妹 吾妹子 姊許 妹替 妹人 芋
精進 五十谷川 翫

鳥目ろく

樓 祿衫 漏刻 祿場 鹿野苑

伊之郷



一色 いろりちともふり日本元子菓も
原 いろりちともふり日本元子菓も

女子のうしと刺せり兼威の秋のちあわれと色子
おやふりつる色いとよあはれ是し 俗女子の
男子悦之丸經文通謂女曰色ト云く有り
● 袷袢といふも色の名成り 埃囊抄の觀の
とふ事古事記に云はれぬ人ものまじ
● めき祿のふみ祿をね衣ともをるり袷の原
と袷をといふあり
● 色とりよ向は紅葉いづこし式子符
又赤紅緋綿等色をといふ有り青葵黒白
單葉をといふ好むと云 此傳ていへり

花柄衣 菘 若野の油 言はれし
時雨の梅 油戻 時雨の地山 柳のいと
松宮の野 松宮の田 松の枝 梅 山崎
● 春の色をいふも好むしやの梅
● 松宮の野の松宮の田の松宮の梅
● 松宮の野の松宮の田の松宮の梅

ありしやと云ふ草をとりて二色に染する色
 先きおさらしてさらけたり又厚めに染り色は
 かりつるととらぬ色より色の中りなり
 一色に染する色にとつては信人しむるは
 ねしてよりありたり色と云ふとありたり
 一色に染する色に染すれども色に染すりし
 色は色と云ふの色のなり

一色鳥

きんぎょをとりて色をとりて

一色鳥 市原 音立 夕日 音立
 孔はしる色をとりて染するの色は染する

一色好

色の條、とりてや、せと色と云ふ
 女色の好のせと云ふ好色あり

く人より他人ともあり
 志の事の、比、段、
 後、死、
 身、中、
 写、信、
 方、の、後、
 眉、と、誰、
 年、の、の、過、し、る、か、
 厚、の、の、の、

若豆、
 花、
 後、打、急、
 油、の、
 厚、内、
 油、
 他、の、
 箱、子、
 車、

夫と書集や昔の衣は染ぬは色好も人のふん信
 一色好は山根やむとて誰か好色あり
 和名物は本草をとりて染衣を以てあり焼詣
 萬葉一練作之又杉反あり焼杉木葉作之
 並入律用一今梅俗所謂椿反市是也

一色之衣

はな事の色と云ふなり
 一色は一色と云ふなり
 一色は一色と云ふなり
 一色は一色と云ふなり
 一色は一色と云ふなり

一色之衣、百巻庭、布將場、市場、
 海、の、舟、丸、木、より、
 一色之衣、百巻庭、布將場、市場、

一色之波

母の古きく、神代能知名物なり
 一色之波、色果の母あり受の、色母なり
 一色之波、色果の母あり受の、色母なり
 一色之波、色果の母あり受の、色母なり

一色之波、色果の母あり受の、色母なり
 一色之波、色果の母あり受の、色母なり
 一色之波、色果の母あり受の、色母なり
 一色之波、色果の母あり受の、色母なり

文字又もつて歎とをえいづ 枕をよつぐのよ
 ありとあり ●西行談抄よりほよこの歌
 こみけの木は梅も空も十層とていひ秋の山里

一山石 磐又磐石といひよめく岩、因
 事記五葉の石もよめり 石齒のそめす 古

●今伊勢の俗い丸のおい石しとよの百もつ
 とつりほきまのそめす 伊勢のそ
 よふまの那久河國の信もたつ石と土のたつり
 おや岩とよめり

●小綱よいよも重石と大綱よいよも重石と
 といひも石のそめす といひも石のそめす
 すまよいよも重石と大綱よいよも重石と

●念力石と通子とよめり 藤の葉も 李侯の藤
 足草中ノ石は為虎也射す中ノ没溺視す
 石すといひよめり

●岩動のそめすといひよめり

○酒、沼、池、水、泉、清、火、山、吹、兼、兼
 友、苔、鴨、鶴、鶯、水、香、竹、小、舟
 吉野の道、柳、山、菱、柞、桂、記述のそめす
 花、谷、榎、子、米、小、子、物、取、藤、花
 飛の尾、水、豆、飯、高、山、入、海、山、川
 田、性、鷲、左、山、路、帯、菫、花
 井、庵、熊、茅、野、川、馬、床、交

松、吉野の、榛、思、川、手、智、ね、夜、馬
 つ、心、茶、丘、葉、魚、櫻、梅
 杜若、鳴滝、菱、菫、菫、小、秋、中、山
 苔、衣、蕨、涼、尺、寸、言、野、空、海、松

入海のそめすといひよめり 波城のそめすといひよめり
 夏の間行中も谷底のそめすといひよめり 陸のそめすといひよめり
 山はあつちのそめすといひよめり 谷のそめすといひよめり
 谷底のそめすといひよめり 山はあつちのそめすといひよめり
 谷底のそめすといひよめり 山はあつちのそめすといひよめり
 谷底のそめすといひよめり 山はあつちのそめすといひよめり

天、芳野川、源、林、の、そめすといひよめり 谷のそめすといひよめり
 天、芳野川、源、林、の、そめすといひよめり 谷のそめすといひよめり
 天、芳野川、源、林、の、そめすといひよめり 谷のそめすといひよめり
 天、芳野川、源、林、の、そめすといひよめり 谷のそめすといひよめり
 天、芳野川、源、林、の、そめすといひよめり 谷のそめすといひよめり
 天、芳野川、源、林、の、そめすといひよめり 谷のそめすといひよめり

右の山の麓にすむは降苔の森と稱するが
五、山頂の麓にすむは降苔の森と稱するが
五、山頂の麓にすむは降苔の森と稱するが

一 山巖

和名抄にいしむしよめり、神代紙
といふとよめり、百葉なる石と
よめり又いふとよめり、石の如き

- 龜山、暮、麦、梅松、苔、蘆、滝、新
- 言波、以丸、楊、花、石葉、乙女、神
- 落葉、苔、榎、松、杉、草、木、石
- 山崎、くね世

君代の山に降苔すむるもその麓に
天人の好衣といふ降石と白くすすを降石
一切しつもの、梵おすくくく三三す

夫、あつちの山に降苔すむるもその麓に
夫、あつちの山に降苔すむるもその麓に
夫、あつちの山に降苔すむるもその麓に

一 窟窟

居れり打う降の山、山に降石すくくく
○ 倭腰塞、行、勤、僧、苔、衣、笠、草

- 水尻、洞、松、峰、殿、世、苔、筆
- 山伏、洞、松、苔、殿、世、苔、筆
- 墨保、洞、松、苔、殿、世、苔、筆
- 常盤山、洞、松、苔、殿、世、苔、筆

然の窟窟の窟もあつちの窟もあつちの窟も
夫、あつちの窟もあつちの窟もあつちの窟も
夫、あつちの窟もあつちの窟もあつちの窟も

一 山名橋

萬葉子石橋とよめり、川子石と
並言して橋とよめり、石走と
海國の山に石橋あり、天造の奇蹟なり

一石見

世園子言角山、岩崎山、或る浪山
るし岩崎石の山なりを以て名
とすしと云、又出雲九洲、遠流子石見の海の
あはれしと云、古くも、石見の愛をいふ言
いふありて、唐の「石見の愛」云々
宋の浦のありて、けしきを愛する、あまき志云々
●石見川、那志那津の川と云ふ石見流も
凡そ石見一ト丸の名とす、近藤那津云々

○言角山、比礼振峯、末浦、舟、
美敷段、月、子香、言角山、妹

石見厚言角山、石見流、石見流、石見流、
夫、石見流、石見流、石見流、石見流、
然、石見流、石見流、石見流、石見流、

一祝

日本流子系、字万葉集、流子
流子、流子、流子、流子、流子、
よ、同流子系、字万葉集、流子、
君、流子、流子、流子、流子、
凡て流子、流子、流子、流子、
凡て流子、流子、流子、流子、
とあり、また、流子、流子、流子、
●祝言とあり、流子、流子、流子、
●立敷、酒、肉子、流子、元飯、流子、
老、流子、流子、流子、流子、

一結肌帯

神功皇代、流子、流子、流子、
攻め、流子、流子、流子、流子、
子、流子、流子、流子、流子、
第、流子、流子、流子、流子、
とあり、また、流子、流子、流子、
流子、流子、流子、流子、

人、流子、流子、流子、流子、
百、流子、流子、流子、流子、
後、流子、流子、流子、流子、
好、流子、流子、流子、流子、
此、流子、流子、流子、流子、
五、流子、流子、流子、流子、

運、流子、流子、流子、流子、
本、流子、流子、流子、流子、
此、流子、流子、流子、流子、

一幼推

い、流子、流子、流子、流子、
い、流子、流子、流子、流子、
辞、流子、流子、流子、流子、

大所(同) 善哉(一) 幼少ともあり

○新松 足初、 ぬる席、 目もえ、

返り文、 元可造、 下の思、 婿く髪、

髪揚り、 井中巨事、 井中、 後ちり文、

難産の、 初見、 多智、 物え更、

止山、 ちむきか、

夫、 初見、 結、 悟、 再行

一いす、 古き、 櫛、 かり、 あり、 説詞

○去茶、 せ、 せ、 賢人、

文子、 席巻、 老う、 五人、

おの悔心、 友や茶、 双杖、 雑沓の習、

筆、 友、 西交、 袖の二、 寺長、

八手、 野中清、 燗、 小巻、

古の昔の、 澄、 袖、 かり、 山所

古の野中清、 ぬる、 ぬる、 ぬる、 ぬる、

極武天皇の、 作、 春、 下、 八、 信、 香、

子、 あり、 下、 あり、 時、 中、 あり、 水

を、 ぬ、 の、 こ、 ころ、 かり、 かり、 かり、 かり、

ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、

ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、

ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、

ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、

ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、

ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、

ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、

ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、 ぬ、

一庵、 日本記、 伝、 名、 抄、 子、 信、 言、 とい、 かり、 こと、 よ

子、 盧、 入、 とも、 あり、 又、 野、 へ、 子、 あり、 こと、 よ、 昔、 再、 見、 せ、

い、 かり、 こと、 よ、 昔、 再、 見、 せ、 こと、 よ、 昔、 再、 見、 せ、

と、 あり、 こと、 よ、 昔、 再、 見、 せ、 こと、 よ、 昔、 再、 見、 せ、

周、 中、 後、 子、 言、 山、 の、 伊、 德、 利、 筵、 山、 の、 伊、 德、 利、 筵、

多、 あり、 海、 賊、 子、 惟、 神、 是、 宅、 示、 神、 是、 盧、 と、 之、 地、 理、

ま、 あり、 あり、 こと、 よ、 昔、 再、 見、 せ、 こと、 よ、 昔、 再、 見、 せ、

舞、 こと、 よ、 昔、 再、 見、 せ、 こと、 よ、 昔、 再、 見、 せ、

伊、 德、 利、 子、 作、 れ、 定、 長、 武、 子、 伊、 德、 利、 子、 作、 走、

後、 の、 子、 篇、 を、 略、 して、 伊、 德、 利、 子、 作、 走、 後、 の、 子、 篇、

七

又或物子伊也利いづくまのあぐいぐえのくを略して利の助語をい言山麓山のいぐ重をうごちてとらふんくといふことなり

●又いと事い悔名物子庵廬とまあり箱提よりいを辞意すまふことなり或いといふのましろの及不こともい新撰古伝の廬もよあり家止子廬すうり日本紀よまふこれ我邦のいりいそ礼観つべし

- 山、田、市、燦、新、市、位、蓬、吳、萍、烟、晴、三、福、香、舟、小、雀、松、野、井、光、山、洋、布、曼、野、中、萩、松、虫、い、さ、井、松、板、而、雪、苔、遠、山、畑、柴、ひ、大、葛、松、丸、金、津、山、若、芦、吉、野、山、五、葉、月、登、座、之、信、尾、花、冰、氷、稻、荷、山、窓、松、兩、岩、登、樹、加

此等のあはれものわがや花してかきす枝のほろむ、
 色にうらぐ松をあらうい言山麓山のいぐ重をうごちてとらふんくといふことなり

●又いと事い悔名物子庵廬とまあり箱提よりいを辞意すまふことなり或いといふのましろの及不こともい新撰古伝の廬もよあり家止子廬すうり日本紀よまふこれ我邦のいりいそ礼観つべし

此のともあはれものわがや花してかきす枝のほろむ、
 色にうらぐ松をあらうい言山麓山のいぐ重をうごちてとらふんくといふことなり

一糸

いと糸の糸下と云うつと云う
 通ス説文は一番所吐為忽糸の
 糸忽とト云り ●大ひの糸と云故事と昔物造
 見之文信中三河國より勅書し神風物産伝
 國主採糸糸と云と之赤糸糸と云と云り

- 楸、日、氣、七、曲、の、虫、調、轉、の、秋、ゆ、珠、
- 鉤、琴、調、野、雨、水、妻、の、笠、
- 破、義、那、経、色、七、夕、骨、月、女、
- 燦、白、髪、履、馬、佛、の、木、子、燕、

何と云ふ山ありあ糸のほろむのあすはる心
 一糸の糸下と云う
 通ス説文は一番所吐為忽糸の
 糸忽とト云り ●大ひの糸と云故事と昔物造
 見之文信中三河國より勅書し神風物産伝
 國主採糸糸と云と之赤糸糸と云と云り

新野の馬はもと羊羊のひと人兼てその木の枝の根は
其の木の根の中の人をきりて身一つをたぎら

一、標 雑木ニ

大井川の時鳥々枝はらるるては其の木の枝をたぎら

一、逸師 諸君在りては羊羊の木の枝は
羊蹄ともありて復盆子といふこと

とも又藤ともいふ。●品評は其の木は送のほどりのつ
ふに平といふを羊羊と云ふこと又いつちこの生
いふに平といふを羊羊と云ふこと又いつちこの生
昌史といふを羊羊と云ふこと又いつちこの生

●品評も衣をかきしは送の木の枝をたぎらして其の
木をかきしは送の木の枝をたぎらして其の木の枝を
たぎらして其の木の枝をたぎらして其の木の枝を

一、入日 山曰く字をいひし訓せり。●品評は其の木は送のほどりのつ
ふに平といふを羊羊と云ふこと又いつちこの生

●品評も衣をかきしは送の木の枝をたぎらして其の
木をかきしは送の木の枝をたぎらして其の木の枝を
たぎらして其の木の枝をたぎらして其の木の枝を

●品評も衣をかきしは送の木の枝をたぎらして其の
木をかきしは送の木の枝をたぎらして其の木の枝を
たぎらして其の木の枝をたぎらして其の木の枝を

一、入江 江の部ニ一、入相 江の部ニ

一、入海 漢、月、馮、中津舟、千とら

●品評も衣をかきしは送の木の枝をたぎらして其の
木をかきしは送の木の枝をたぎらして其の木の枝を
たぎらして其の木の枝をたぎらして其の木の枝を

夫、近海に海舟は中津舟に似たり。其の木の枝をたぎらして其の木の枝を
たぎらして其の木の枝をたぎらして其の木の枝を

一、入ぬる 故 樹のこねむらさきのこと

●品評も衣をかきしは送の木の枝をたぎらして其の
木をかきしは送の木の枝をたぎらして其の木の枝を
たぎらして其の木の枝をたぎらして其の木の枝を

一、入ぬる 故 樹のこねむらさきのこと

万 以てその入れる所の事柄はとてかくす事なり
以て其の野の邊の事柄をいへは極の事柄なり
夫 古の事柄の事柄は極の事柄なり

一犬
いぬとよめる事柄なり
狗の別居を言守御せし事なり

● 埤埤子犬其言と云
● 大將禁秘物其の公事の出る事なり
● 大將禁秘物其の公事の出る事なり
● 大將禁秘物其の公事の出る事なり
● 大將禁秘物其の公事の出る事なり
● 大將禁秘物其の公事の出る事なり
● 大將禁秘物其の公事の出る事なり
● 大將禁秘物其の公事の出る事なり

○ 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
○ 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
○ 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
○ 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
○ 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
○ 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
○ 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
○ 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守

● 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
● 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
● 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
● 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
● 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
● 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
● 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守
● 犬の事 宿守 枕石谷 仙家 宿守

一乾
イヌ井
通成と云ふ事柄なり

夫 通成と云ふ事柄なり
夫 通成と云ふ事柄なり
夫 通成と云ふ事柄なり
夫 通成と云ふ事柄なり
夫 通成と云ふ事柄なり
夫 通成と云ふ事柄なり
夫 通成と云ふ事柄なり
夫 通成と云ふ事柄なり

一 巢

いむれを物と巢の俗造ことり
ほせ物うらうらもしつおせし
鳥丁をいふ(鳥身) 鳥丁をいふ(鳥身)の少をし候
鳥丁をいふ(鳥身)の少をし候
秋供にあや字の部とあり

一 瑞籬

イカキ
五葉集倭名抄にのりきとあり
神社にありといふ瑞籬の事あり
井垣ともありい井ともいふ(井)て甲申

- 花、葛、友、知九、巨連、無言、神祖
- 秋、松、栂、神、梅、泉傳、古砂
- 月、雪、露、市鹿、櫻、大宮入、葛
- きつら丸夜

夫 市鹿の沖のいふはるる高の物とありて
瑞籬花をくまると角も神の井垣とも社にあり
古 子事候神の井垣と高の松のいふつらひの事
か あり神の井垣と高の松のいふつらひの事
井垣ともいふといふこと
産田にありといふこと

一 夜

倭名物、椀、椀ともいふことあり
船解ともいふ 鳥賦に、椀
世まへて夜の名を用い字ありとあり
世まへて夜の名を用い字ありとあり
手繩、椀ともいふ

- | | | | | |
|---------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|-------------|
| 秋の夜 | 椀 | のりき | 古砂 | 神祖 |
| 椀 | 椀 | のりき | 古砂 | 神祖 |
| ○花、葛、友、知九、巨連、無言、神祖 | ○秋、松、栂、神、梅、泉傳、古砂 | ○月、雪、露、市鹿、櫻、大宮入、葛 | ○きつら丸夜 | |
| 夫 市鹿の沖のいふはるる高の物とありて | 瑞籬花をくまると角も神の井垣とも社にあり | 古 子事候神の井垣と高の松のいふつらひの事 | か あり神の井垣と高の松のいふつらひの事 | 井垣ともいふといふこと |
| 産田にありといふこと | | | | |

井川花をいふはるる高の物とありて
世まへて夜の名を用い字ありとあり
世まへて夜の名を用い字ありとあり
手繩、椀ともいふ

一 虎杖

虎の草

一 つづき

虹の角の痛場の訓... 〇月... 〇...

一 磯

神倉の子... 〇磯... 〇磯... 〇磯...

磯の波... 磯の岩... 磯の川... 磯の山...

舟... 山... 松... 海松... 〇...

天... 吉... 夫... 舟... 天... 舟... 舟...

一ツ急心
いんしん
いんしんよあつらひの経路をくわ
日本北のあつらひけとらひ
い及のあつらひ一急のあつらひの靈異地は能と
よあひ

一 海防
七の船の、をひく衣、黄の、海防、
古事
七の船の、をひく衣、黄の、海防、
古事

俗諺に、いんしんよあつらひとらひ、七の船の、をひく衣、黄の、海防、
夫、立田のあつらひの、七の船の、をひく衣、黄の、海防、
七の船の、をひく衣、黄の、海防、

一五十一
二教のいんしんとよあつらひ
あつらひ、いんしんとよあつらひ
あつらひ、いんしんとよあつらひ

三の世、元法、海防、
七の船の、をひく衣、黄の、海防、
七の船の、をひく衣、黄の、海防、
七の船の、をひく衣、黄の、海防、

海防、元法、海防、
七の船の、をひく衣、黄の、海防、
七の船の、をひく衣、黄の、海防、
七の船の、をひく衣、黄の、海防、

一 伊豆
いづの國に横濱の海防、
出づるは右つら、後には

走馬、若松、天橋、古井杜、仲小島、
若松、天橋、古井杜、仲小島、

一出西云
いんしんよあつらひの経路をくわ
日本北のあつらひけとらひ

油師、油師、
七の船の、をひく衣、黄の、海防、
七の船の、をひく衣、黄の、海防、

藤原 藤原の女流の物語...
藤原の女流の物語...
藤原の女流の物語...

一 祝宮

景行天皇の代に...
景行天皇の代に...
景行天皇の代に...

- 椒、松、杜若、子日、舟丘屋、巴、公麻のよろろ
雲林鏡、有格川、秋花、松虫、神
神垣、木崎禊、葵、高の隈、

鳥羽の...
鳥羽の...
鳥羽の...

夫が...
夫が...
夫が...

一 壁生草

この草の...
この草の...
この草の...

六 川子橋屋とて... 鳴かすも... 板倉の橋とて... 此の馬の... 夫... 謝...

一 龍

龍... 又... 龍...

一 命

命... 命...

七の俗語より...

- 鶴、亀、虫、山、羊、硯、松、老
- 子、不、粟、陽春、又の葵、契、匠
- 安芸、那、上、の、世、頼、進、善、の、水
- 船、の、月、朝、島、お、の、島、名、鐘、板
- 西、土、さ、せ、も、り、雲、小、沢、中、心
- 足、軍、の、三、子、と、令、筆、下

...

...

...

...

...

...

...

一 行

新神二字をいひのりやありて
宜々の事行撰字統は記又
註をもあつて忌の敬の謂なり
○ 亥分馬子なる句より
○ 願せざるもよし

- 凡人、物産、物産、物産、子生、片板、
- 又さく、信の師、君、君、君、
- 木綿、送果、白、白、白、
- 貴布祿、而、首、花、
- 亂、宮、柳、内宮人

子、いひのりやありて、
 ○ 長尾景春の子の景虎、
 ○ 長尾景春の子の景虎、
 ○ 長尾景春の子の景虎、
 ○ 長尾景春の子の景虎、
 ○ 長尾景春の子の景虎、
 ○ 長尾景春の子の景虎、

一 軍

日本記に射をいひてある相属するの判り
 ○ 日本記に射をいひてある相属するの判り
 ○ 日本記に射をいひてある相属するの判り
 ○ 日本記に射をいひてある相属するの判り
 ○ 日本記に射をいひてある相属するの判り
 ○ 日本記に射をいひてある相属するの判り

○ 矢、馬、重、鼓、赤、の、

一 十串

伊格レ 畢事純、早綿、
 ○ 伊格レ 畢事純、早綿、
 ○ 伊格レ 畢事純、早綿、
 ○ 伊格レ 畢事純、早綿、
 ○ 伊格レ 畢事純、早綿、

夫、いふも、世にあらはれぬものなり、いふも、世にあらはれぬものなり、
 里にあらはれぬものなり、いふも、世にあらはれぬものなり、
 里にあらはれぬものなり、いふも、世にあらはれぬものなり、
 里にあらはれぬものなり、いふも、世にあらはれぬものなり、
 里にあらはれぬものなり、いふも、世にあらはれぬものなり、
 里にあらはれぬものなり、いふも、世にあらはれぬものなり、
 里にあらはれぬものなり、いふも、世にあらはれぬものなり、
 里にあらはれぬものなり、いふも、世にあらはれぬものなり、
 里にあらはれぬものなり、いふも、世にあらはれぬものなり、
 里にあらはれぬものなり、いふも、世にあらはれぬものなり、

一家出

日本に俗に家とていふて、訓
 せり、俗人をいふなり、度のなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、

法の後、悟、行、甚深、油、世、三車、
 山、月、一、味、雨、甚、虫、う、禱、修、切、

此、世、の、事、を、い、ふ、に、
 此、世、の、事、を、い、ふ、に、
 此、世、の、事、を、い、ふ、に、
 此、世、の、事、を、い、ふ、に、
 此、世、の、事、を、い、ふ、に、
 此、世、の、事、を、い、ふ、に、
 此、世、の、事、を、い、ふ、に、
 此、世、の、事、を、い、ふ、に、
 此、世、の、事、を、い、ふ、に、
 此、世、の、事、を、い、ふ、に、
 此、世、の、事、を、い、ふ、に、

夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、
 夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、
 夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、
 夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、
 夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、
 夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、
 夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、
 夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、
 夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、
 夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、
 夫、い、ふ、も、世、に、あら、は、れ、ぬ、もの、なり、

一家風

家の風、同、一、の、家、の、風、
 家の風、同、一、の、家、の、風、
 家の風、同、一、の、家、の、風、
 家の風、同、一、の、家、の、風、
 家の風、同、一、の、家、の、風、
 家の風、同、一、の、家、の、風、
 家の風、同、一、の、家、の、風、
 家の風、同、一、の、家、の、風、
 家の風、同、一、の、家、の、風、
 家の風、同、一、の、家、の、風、
 家の風、同、一、の、家、の、風、

野の橋、あやめ、言の梅、花の庭、楊枝、
 啼む端、足、斬中、魚、式采、
 元後、子生先、進む位、珍ふ司、
 秋、学、文、詩、幼少人、
 加の浦、産衣、昔跡、蘭、社、
 ころの麦、虫、月の桂、五葉、

今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、
 今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、
 今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、
 今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、
 今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、
 今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、
 今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、
 今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、
 今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、
 今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、
 今、あ、あ、い、い、の、事、を、い、ふ、に、

一、械

日本に俗に家とていふて、訓
 せり、俗人をいふなり、度のなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、
 今、得度とていふなり、

よて世木のいひおろしよあり

池のいひおろしよあり

池のいひおろしよあり

池のいひおろしよあり

池水、小田、黄、堤

一 飯

湯漬

飯のいひおろしよあり

朝飯、昼飯、夕飯

朝飯、昼飯、夕飯

朝飯、昼飯、夕飯

朝飯、昼飯、夕飯

朝飯、昼飯、夕飯

朝飯、昼飯、夕飯

朝飯、昼飯、夕飯

朝飯、昼飯、夕飯

朝飯、昼飯、夕飯

一 妹

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

いひおろしよあり

夫婿と云つた事を見事とあり夫を伯とも仲子
とも云ふ事も元止母の妻をばして妹とらふ
ともあり神代に夫息を云はる君しよと婿
さし世に妹と云ふ事あり世に世に世に
妹蓋世の事ありと云ふ事あり世に世に
めり討らるなり延長式も伊波奈伎伊波奈伎命
姉妹と見えたり妹の夫の事あり本意も非不
女夫二合字成等下二言ハ世の始らるる時
秋化の事も太古の同性を云はるる親族をさけハ
近親も異母妹と云はるる是口夫と云ハ
團圓り神代言ふ礼儀定やする世
とて殺す我の事あり礼を制する草昧
の俗子事ありと云ふ事あり世に世に
母すつ妹ありあり神代の人あり

天地、三日月、青の松の陰戯、媒、
切かぢの敷、吉の川、絶念の事

古
庭にほつたものの中へ吉の川のさや中へ
さよせの地をくちまへともあり又いと世情
とて去候の事の中へありさよせ
ういふ事あり事の古事一弟一毒し
● 妹の列れりともあり、あのかをとりか
あつたもの、絶念の事、たおれ美の心
つたものありともあり、吉の川にせし居りともあり

一妹人

ほろけ、さよせ、妹人の事
源成、あつたものありともあり

とあり妹人をさよせと云ふ事ありさよせと云ふ事あり
夫の男を以て妹人といふ事あり吉の川にせし居りともあり
● 婿をよめる説文、楚人謂女才曰媚と云ふ事あり

さよせといふ事ありさよせといふ事あり
婿の事ありさよせといふ事ありさよせといふ事あり

さよせといふ事ありさよせといふ事あり
これにまへにありさよせといふ事ありさよせといふ事あり
婿ありさよせといふ事ありさよせといふ事あり
あつたものありさよせといふ事ありさよせといふ事あり

中

さよせといふ事ありさよせといふ事あり
さよせといふ事ありさよせといふ事あり

さよせといふ事ありさよせといふ事あり
さよせといふ事ありさよせといふ事あり
さよせといふ事ありさよせといふ事あり
さよせといふ事ありさよせといふ事あり
さよせといふ事ありさよせといふ事あり
さよせといふ事ありさよせといふ事あり
さよせといふ事ありさよせといふ事あり
さよせといふ事ありさよせといふ事あり

陸奥国下野の岩倉郡

一 芋 イモ

百葉芋の芋は山芋に對しては味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の
戦じつと多し又栗芋も味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の

セタ芋の芋は山芋に對しては味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の

一 精進 イモ

芋食の精進は山芋に對しては味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の

神事 泉綿 神 庚 毎日を精進
巨津 中 巨津 中 巨津 中

夫 芋食の精進は山芋に對しては味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の

一 丘十ヶ川

日本北の山にありては味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の

一 鯉 イナカ

イナカ 鯉 日本北の山にありては味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の

夫 芋食の精進は山芋に對しては味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の
りも里芋と異なり又栗芋も味も食の

● 呂之郊

一 樓

ろいきん ちうとのとよめ

船 橋船 鐘 江 酒 呂橋

款 驛 市 尾 門 詩 嘉 舞

橋衣 ち 夕 仙 常 山 洋

花 池 唐 舟 柳 松 涼 月 雪

燕 齋 常 柳 松 鶯 鷹 雁

物 吉川 眺 望

吉川 橋の川内をさすところあり 吉川 百景
おろし 橋のむら 橋あり 吉川 百景

一 緑衫 ロウカサ

ろくさうし ちあつちあつ 吉川の
泡あり 吉川 百景

一 漏刻

告漏刻 吉川 百景
明ヶもの百景より十二時をいふ

一・禄賜

元版、彦養、袴巻、黄巻、笑の席、
市使、文使、歌人、そ途、勝軍、
弓射人、狩場、伝の由事

一・鹿野苑

鹿野苑 (ロウヤオン) 秋言始テ小葉法を元
の他、小葉の菩提、小葉の四諦生滅
大葉空寂ふまふ滅の法、
系の菩提達磨元文也元文也元文也

○山、木葉、照録日、花、萩、花

長秋、
大葉の圓子、
萩の多、

・波之部

一・這入

門のこの口、
大方、

○柳、松、中、柴、蓮、車、萍、杉

夫、
又い、

一・萩

○尾園、外山、
二村山、
萩、
木枯、

夫、
三十五

此の木の皮を足湯に用ひたり。木の皮を焼きて、
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。

夫、木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。

一、母子汁

古来又若し行壽一人日七夜一又新楚歳時
此の汁を飲む。此の汁を飲む。此の汁を飲む。
此の汁を飲む。此の汁を飲む。此の汁を飲む。
此の汁を飲む。此の汁を飲む。此の汁を飲む。

夫、木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。

一、常木

此の木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。
木の皮を煮たものを飲む。木の皮を煮たものを飲む。

一 土丹生小屋

土丹いんまつちく日本北
極北又土とと子ことあり
極北の事ありつちの古語古語極北の事あり
極北の事ありつちの古語古語極北の事あり

而、此雨、食、旅休、月、菴、川、遠、子
及松、雪、道の、夕歌、豆、床、少雨、大
吾姊子

天、川の事ありつちの古語古語極北の事あり
又夫の丹生丹生の事ありつちの古語古語極北の事あり
道の丹生丹生の事ありつちの古語古語極北の事あり
万、久、丹生丹生の事ありつちの古語古語極北の事あり
信、丹生丹生の事ありつちの古語古語極北の事あり

一 蠅

友也友也又月月蠅蠅神神と日本
池池子天子天區區大神大神法法孫孫と今
やありつちの中の國國の事ありつちの古語古語極北の事あり
ともありつちの中の國國の事ありつちの古語古語極北の事あり
ともありつちの中の國國の事ありつちの古語古語極北の事あり
ともありつちの中の國國の事ありつちの古語古語極北の事あり
ともありつちの中の國國の事ありつちの古語古語極北の事あり

果、浮路、御、多、暫、は、志、旅、休、藤、果、
天、水、
天、水、
天、水、

一 鳩

吉畑、片山、松、谷、墨部、山本、杜、
山の五、竹林、白、古宮、山、里、而、
人、信、音、松、の、木、木、山、山、山、山、
柿、の、花、写、煙、硯、史、史、史、史、
杖、夕、暮、八、段、山、

水、山の事ありつちの古語古語極北の事あり
ともありつちの中の國國の事ありつちの古語古語極北の事あり
ともありつちの中の國國の事ありつちの古語古語極北の事あり
ともありつちの中の國國の事ありつちの古語古語極北の事あり
ともありつちの中の國國の事ありつちの古語古語極北の事あり
ともありつちの中の國國の事ありつちの古語古語極北の事あり

飛子の陽の山の嶺のつらなる音もくく
高杉有景鳩笑杜空墻瓦亢嵐嫌貪

一 鳩吹 鳩の吹く音もくく
鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

鳩吹の音もくく

一 鳩杖

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

鳩杖の音もくく

一 蜂

蜂の音もくく

蜂の音もくく

蜂の音もくく

蜂の音もくく

蜂の音もくく

蜂の音もくく

蜂の音もくく

蜂の音もくく

蜂の音もくく

蜂の音もくく

一 蓮

蓮の花もくく

蓮の花もくく

蓮の花もくく

蓮の花もくく

○何の心 入海、夕立、桂雨、羽、夢、

号、魚、龍、湖、性、月、

海、梅子、木、菖蒲、いり、末、針、

三平、凡そこの蓮の花をいふは、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、蓮花、

一蓮、上、秋、高、蓮、の、や、う、と、も、よ、う、と、り、

○夏、五、甘、雨、林、陸、舞、佛、行、

秋、高、蓮、の、や、う、と、も、よ、う、と、り、

一針、荷、同、と、り、と、り、と、り、

針、同、と、り、と、り、と、り、

一 破 秋 流 梵ノ歌 秋ノ流

梵ノ歌 秋ノ流 本叶 別 秋ノ流
昔云 淨 秋ノ流 今云 淨 秋ノ流
秋ノ流 秋ノ流 秋ノ流 秋ノ流

夫 秋ノ流 秋ノ流 秋ノ流 秋ノ流

一 春 雨

春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨

春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨

春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨

春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨

春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨

春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨

春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨

春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨

春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨

春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨 春ノ雨

一 春 月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

春ノ月 春ノ月 春ノ月 春ノ月

一 春 曙

春ノ曙 春ノ曙 春ノ曙 春ノ曙

春ノ曙 春ノ曙 春ノ曙 春ノ曙

瓜 出骨、名、并、並、芋、
いふはあり死生の富并傳はるる世に
種をまきしは、並重なるあれ、
穀をけりて、
穀をけりて、

一 螺 (カサリ) ともともおしともあり

一 菊 菊野、博身、並、並、菴、大、三村山、
糸尾、吉田、並、并、七、夕、衣、
別路、蘭、並、花、宮城、殊、着、
木、
夫、
考、
夫、

一 令法 (カツモウ) 木、
木、
木、

夫、
夫、
夫、
夫、
夫、

一 泊木 頭昭元、下、
木、
木、
木、

一 瓜 (カ) 三股、
瓜、
瓜、

麻、
麻、
麻、
麻、
麻、

一 初外 (カウ) 都、
都、
都、

一 初午 二月、
二月、
二月、

二月、
二月、
二月、
二月、
二月、

まのつとみさきつとみさきの御つとみさき
このつとみさきの御つとみさき
昔のつとみさきの御つとみさき

二、あつちのまきまきのつとみさきの御つとみさき
先後
つとみさきの御つとみさき

一、初申 其のつとみさきの御つとみさき

一、初元結 元後首後つとみさきの御つとみさき

○元後のつとみさきの御つとみさき
つとみさきの御つとみさき

○元後のつとみさきの御つとみさき
つとみさきの御つとみさき

○元後のつとみさきの御つとみさき
つとみさきの御つとみさき

○元後のつとみさきの御つとみさき
つとみさきの御つとみさき

○元後のつとみさきの御つとみさき
つとみさきの御つとみさき

○元後のつとみさきの御つとみさき
つとみさきの御つとみさき

○元後のつとみさきの御つとみさき
つとみさきの御つとみさき

長閑のまの女若はれはねとけし
夫三浦能高の自東とらうりや三浦の舟船
信濃守の程久きよ東花のりふけは
はなは木若山橋にまらぬ程すかすれ
凡の程より程の程きし。凡と程とらうりや
ついでとてあつたもあれは程の角三浦
さるや

一花ぶら

薦つと又菅と
ついでとらうりや三浦の舟船
ついでとてあつたもあれは程の角三浦

○尺、金、吹、芦、表、反、馬、却、入、中、花、
我、答、杜、若、信、川

万女は馬のあはれうらなとてあつたもあれは程の角三浦
子高きと程の程きし。凡と程とらうりや

あつたもあれは程の角三浦

一とれ

とあつたもあれは程の角三浦
とあつたもあれは程の角三浦

とあつたもあれは程の角三浦

一銭

酒の鼻の向いて御別すうりや
飲食、餅との貨財は賤とらうりや又付のしや
を程備うらうりや。酒の鼻の向いて御別すうりや

○船、舟、使、兼、酒、歌、帯、唇、
大、抄、指、衣、杯

とあつたもあれは程の角三浦

とあつたもあれは程の角三浦

とあつたもあれは程の角三浦

とあつたもあれは程の角三浦

一放馬

夫、山、橋、つ、と、世、の、放、馬、と、ら、う、り、や、
とあつたもあれは程の角三浦

一原

とあつたもあれは程の角三浦

を申すも彼がこれい少のきやうを板と通用して
むつれきとせり刻い井のを若同云こゆ代死
こころ伊葉漢字素也鳴字二大沖のたひ
を合とて板除身解の意と一人のせり行
●こころとつ時今板の女し世友へいされい
人子板いあしおとくわい日本死は板柱又
後見せよとつ伊せ物存よのくくの奥とつ
●新撰を洗は解をとつこころとつ
●板を云のこころとつ ●板一系院の由付七
度の板とつ野付死は由是板板の始又成
へい安徳帝の弟はより子万度の板、一
●代のあしこころ佛の運と悟族すま
つとの瓦是これ張陽師の所業成下とつ
●伊勢の板板とつ板事と死をす。●板物
の運内とついつく板陽院の板とつ

- 高田川庵、喜の川、中野、幸代川
- 原吉川、田上川、杜川、板
- 五十津、岩、父赤、岩皮、板
- 幸勝、道軒、里村、ゆき

おまじとつ川のせと山とつ井極も又岐のすも高
●八百方ゆきとつ馬ふりつとつ板の板つれとつ
すのめい人板のつとつ其の板のつとつ
夫、まはあつとつこれ人板のあつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ

●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ

●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ
●板の板の板とつとつとつとつとつ

友と妹と又情麻の友ととら一玩は友と
八汁は割友ととらと返言六月友と
賦友取割友友と返ととらと返言て友
友ととら

一兄弟

母死と母弟とつらととら
母兄と母弟とつらととら

弟族の友同胞とつらととら
に母死と異母兄弟とつらととら
後母死と父母とつらととら
つらととらの四は拾遺集とつらととら
俾の要とつらととら

○大鳥、錨、魚、洛、梅、東、嶺、筆、位、
諸共、山、入、娘、妹、誣、位、老、科、弱、子、蘭、

暮、表、百、里、伴、兄、詩、班、中、高、衣、

同の事とつらととら
只夕暮の中程の歌とつらととら
は内の大信の五娘とつらととら
おしとつらの事とつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

とらととらとつらととらとつらととら

其の... 衣の... 詩... 其の... 班... 其の... 其の...

一 断鴈

世元曰晋桓温入蜀... 行... 断...

秋思詩篇独断鴈

一 林

尾山... 星... 林...

麻... 里... 秋... 中... 鹿... 雲...

此... 林... 夫... 夫...

一 濱

秋... 貝... 川... 以... 燒... 橋...

明... 海... 雲... 麻... 烟... 舟...

万葉集の巻末に「門」の字ありて「あはれ」云々の事あり
 ●馬場守の巻末に「馬場守」の字ありて「あはれ」云々の事あり
 故に拾ひて「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり

一 淡木綿

三巻の「あはれ」の字ありて「あはれ」云々の事あり
 夫の「あはれ」の字ありて「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり

一 淡尻

伊弉咩の「あはれ」の字ありて「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり

一 有海、兼、白波、中波

〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり

一 蛤

〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり

一 祝部

〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり
 〇「あはれ」云々の事あり

うしこけ 芥末の種をまきし年々おとしをばし
そ年々昔先宮は成度入替年々昔入替の種は
夫れゆへに昔の種よりおとしの種は昔の種より
おとしの種よりおとしの種よりおとしの種より
おとしの種よりおとしの種よりおとしの種より

一箱鳥

武蔵の鳥をいふは又とほきし
今も昔もいふは又とほきし
おとしの種よりおとしの種よりおとしの種より

○芥末 二上心 三上心 二上心

芥末の種をまきし年々おとしをばし
そ年々昔先宮は成度入替年々昔入替の種は
夫れゆへに昔の種よりおとしの種は昔の種より
おとしの種よりおとしの種よりおとしの種より
おとしの種よりおとしの種よりおとしの種より

一顔姑村山

百原の村をいふは又とほきし
今も昔もいふは又とほきし
おとしの種よりおとしの種よりおとしの種より

○花 兼 烏牛 千年皮 老木 田舎
○月 兼 庫多子 茶 根 君代 松

百原の村をいふは又とほきし
今も昔もいふは又とほきし
おとしの種よりおとしの種よりおとしの種より

一運

搬せしものをいふは又とほきし
今も昔もいふは又とほきし
おとしの種よりおとしの種よりおとしの種より

○芥末 兼 柴 刈箱 貢

今も昔もいふは又とほきし
おとしの種よりおとしの種よりおとしの種より

一鏡

鏡をいふは又とほきし
今も昔もいふは又とほきし
おとしの種よりおとしの種よりおとしの種より

の厚りせとぬの厚りといふは橋を造るに
おとす是すくきい谷川は木橋の造るは兼
この木のついでとせられん

夫はたけりや木のより煙草とて小舟並ち
船とあり船活の後の後の橋の造るは兼
池のすきよは國の文橋のつくりは兼
またといふは木のより煙草とて小舟並ち
木のよりの橋とて小舟並ち

とて木のよりの橋とて小舟並ち
木のよりの橋とて小舟並ち

一 箸

箸の造るは兼
洗子英とありとも大書等の箸とて南方
の中書と親王大臣の箸とて白箸を用ひたり
若易とてありとも世に箸とてありとも文
此の箸は金のつくりて用ひたり
万子象牙龍吐屏をて用ひたり
馬車の箸とてありとも象牙の箸とてありとも
筋とて天宮造事とて帝所用之金箸と

しゆ舟といふあり

一 端

端の造るは兼
冕の目一日中地をてありとも間あれば
端とてありともありともありともありとも
この間の造るは兼

木のよりの橋とて小舟並ち
木のよりの橋とて小舟並ち

一 端居

端居の造るは兼
管、月代公、度永、轉ぬ、一、麻、席、軒
ゆ、人、笑、空、揮子、池、庭、泥、萩

一 櫃

櫃の造るは兼
栗の一種とてありともありともありとも
鶴、野、玉、洋、固、五、馬、山、荒、丸、山
山、半、賊、の、恒、ぬ、丘、園、十、勇、麻、左、の、糸
夫、馬、の、脚、の、の、老、婆、未、は、れ、杖、の、極、極、の、糸

一 芭蕉 芭蕉の草は破る。水枯るは文。

○ 後 山瓦 柳 涼 菖 庭 菖 竹 雨
吉 夢 灯 軒 信 雪 藤 窓 雨

夫 菖 芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。

仁之郊

一 庭 馬モ二ハトヨメリ 文選モ二ヨメリ

庭の草の二ハトヨメリの左外西の家の背はこと
之を扱あり ○ 海上あり日ありはよきと云
庭の草の二ハトヨメリの左外西の家の背はこと
之を扱あり ○ 海上あり日ありはよきと云
庭の草の二ハトヨメリの左外西の家の背はこと
之を扱あり ○ 海上あり日ありはよきと云

市 田 池 堤 泉 蓬 葎 梅 菘
菜 薤 虫 仕 袖 花 友 檝 精 進
柴 庵 蚊 火 土 遊 麻 手 土 妙 雲 心 堂
月 下 麥 茶 白 洲 吉 婦 子 吉 岩
稚 滝 菴 葵 古 松 三 家 山 伝 舟
外 花 子 鞠 山 里

夫 菖 芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。
芭蕉の草は破る。水枯るは文。

夫我し西彦の所の去處さしきつては社をたれ秀
 舞の庭とせしつては妻を千代とよめぬ点々ありては
 善悪ありていんよきまのいんよきまの庭の木の
 中にていんよきまのいんよきまの庭の木の
 院は軒の推のたつて庭子に石の川とせし
 庭子に石の川の庭子に石の川の庭子に石の
 庭子に石の川の庭子に石の川の庭子に石の
 庭子に石の川の庭子に石の川の庭子に石の
 庭子に石の川の庭子に石の川の庭子に石の

一 燎

和名 鈔にありしとあり 庭火の如し
 四声 字 庭 火 宣 郎 といふ 庭火
 と焼文 徳 宣 郎 庭 火 宣 郎 といふ 庭火
 とありしとあり 建武年中 行事に 竹 子 あり
 庭 火 あり 始て 報 祭 といふ 庭 火 あり
 名 庭 火

廣 赤 宮 井 玉 恒 糸 井 本 原 林 寺
 赤 山 池 原 厚 の 押 金 林 原 雪
 巨 形 八 崎 山 竹 折 君 世 霜 巨 吉
 星 雲 牙 伴 古 奴 心 方 の 方

夫 庭 火 あり 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し
 夫 庭 火 あり 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し
 夫 庭 火 あり 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し
 夫 庭 火 あり 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し

夫 庭 火 あり 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し
 夫 庭 火 あり 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し
 夫 庭 火 あり 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し
 夫 庭 火 あり 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し 庭 火 の 如 し

一 鷄

和名 庭の如しとあり 庭子の如しとあり
 鳥の如しとあり 庭子の如しとあり
 鳥の如しとあり 庭子の如しとあり
 鳥の如しとあり 庭子の如しとあり
 鳥の如しとあり 庭子の如しとあり

元 日 衣 々 津 手 音 山 梅 赤 瓦
 別 里 志 山 林 津 恒
 藤 ぬ 菊 人 月 花 山 相 皮 雲
 情 足 雲 足 々 雲 麻 院 屋 瓦
 宿 虫 号 仕 君

鶏や若くは中津のいづれかの鶏をいふ

日本天の宮方より下りての一時中津をとり

てあつたとき一時藤原の鶏をとりてあつた

時とていふんは四時とていふ

六時とていふは先づかき申す中津をとりてあつた

夫れは中津のいづれかの鶏をいふ

下田の平津のいづれかの鶏をいふ

時とていふは三時とていふ朝のあけをいふ

月影のまじり物ありとていふ月影のまじり

物とていふは鳥の鳴き声とていふ

一 際

和歌物にいろいろのことあり文選に按
際とていふは朱注に送とていふ水に
とていふは産多泉とていふ泉のたけ
仙覚物に立水居水の事とていふ立水
泉のことなり是れ或は産水のいづれか
とていふ鳥の鳴き声のいづれかあり

南伊せれば俗の圖をいふことあり

性、五時、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二

夫れとていふは雨の降る時とていふ

鳥の鳴き声のいづれかあり

一 鷓鴣 津代池のいづれかの鷓鴣

香とありは鳥の鳴き声とていふ

一 鷓鴣 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二

伊勢の津代大和津子地等の文あり

一 鷓鴣 中津のいづれかの鷓鴣

鳥の鳴き声のいづれかあり

一 鷓鴣 鳥の鳴き声のいづれかあり

鳥の鳴き声のいづれかあり

鳥の鳴き声のいづれかあり

鳥の鳴き声のいづれかあり

忍忍とつろつろ野間郡と近保といふ郷名
あり湖水とよまの浦といひるもはあつら
へし又とよまのうらりとよまの冠字もや

- 古河 中川 赤羽 江 赤羽 三橋
- 紅戸 益田池 玉も 羊ふれ 入江
- 特美 米 幸勝 赤坂 赤坂
- 英豆の郷 丹生川 山川 小舟
- 尾崎 尾川

天 我々の益田池の郷名ありはあつらといふは
古河の古河といふはあつらといふはあつら
同川といふはあつらといふはあつら

一 執費 日平死に好とよあり又芭苴と
訓せり新上の畧也 荷新と同

意又新製ノ君とつら新探字流も
賦しあり ●大宅子奉りといふ新製といふ
ゆきもまきといふ又和のといふはあつら
費殿といふ

○百舌子 此詩の詩を 中明 解使

費もつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつら

新嘗券つらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつら

二 新嘗券 冬新嘗券は古事記にあり
あつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつら

古事記に記すあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつら

●万葉に記すあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつらあつら

菱紋綿 文武花、鹿、綿、文武花、童子綿、
 衣版令、雲綿、本朝式、暈網綿、言春綿、
 軟子綿、西面綿、刺車綿、呂綿、小窠綿、
 一窠綿、二窠綿、五窠綿、屋敷綿、ホコ綿、
 ○花、菟、秋野、言人、小車、立田川、
 江、常夏、梅子、梅、戸張、秋山、
 吉々綿、萩、奴、月、

産園の綿は、
 此の再實綿の毒蕪若蒲綿は、
 綿の古事、

立田川、
 羊陽因忠曰蜀時濯錦於江中則鮮明ト

夫、
 相傳の言ぬる庭のとこ綿泣き、
 古、
 綿為てワ根子、
 此の漢の朱買臣、
 ぬ行、
 とよあ、
 夫、
 とい、

錦部、

一 錦木

夏、
 人、
 古、
 綿木、
 或、
 物、
 此、
 大、
 此、
 小、

立石、

夫、
 綿木、
 此、
 此、

保丈郊

一、帆 わとよめるの穂より 轉るるまや 遠く
よりあつたよに申り 遠く 九
あつたよに申り 遠く 九
と直ぐ 舟の舟 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り

一、ほどろ 蕨子云々 舟より 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り
舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り 舟と申り

一佛

浮屠教の言し毎東作佛舎乃置佛
像及煙以礼存倍新事り天武天皇
の詔しの人玉三子代欽明帝ノ小守百毎回方始テ
寂伽佛の像幡天蓋佛座を献ス物部尾
誅レヨリテ帝小孫大長宿白子孫いたは
事ヲ残テラるとして向席と号ス是日奉へ佛
依座ヤ加蓋と化ガ始メニ黄面ハ慈愛派
子コチ天竺人ハ紫色カラヨリ通高考ヨリ
されト佛也ノ紫磨英令ノ云々といふ處ヤ
難陀伽藍の丁口合子下ノ欄とあり造り多し
○佛可ト云ふといふはすうじの泊瀬歌音
水尾山ノ末尾末て止り多クと取て作志ウ

- 泊瀬、吉野、嵯峨、水尾、吉野、古交
- 伴作、三尾松木、檜、兼、葵、櫻
- 秋萩、紫花、扇、羊舌、行い
- 法ノ花、法ノ水、高のろ、扇、橋花
- 蓮、雞皮、笛、六柄、杖、梅花
- 注、日本國

夫是邊佛の邊に入リテ云々會い多クある處
佛量品壽命を無量劫のころ
陰の水を伝の亦名子佛を云々四のあは治ひ入る

とい勅垂ぬ南諸四依んといし

る、さ、れ、佛のあ、は、橋、花、と、れ、成、ん、香、の、垣、木、
蓮、を、野、も、し、う、を、ま、れ、佛、の、邊、に、れ、を、テ、ク、
夫、及、後、を、因、り、に、佛、の、内、に、を、り、テ、
は、言、に、震、朝、時、朝、も、ヨ、リ、お、恒、髻、髻、と、一、天、の、牙、を、
よ、め、つ、し、こ、も、

よめつしこも
三の佛は離れ三世の仏よりは杖よりりてその
し、は、れ、
只、門、の、約、の、つ、を、何、れ、佛、の、邊、に、あ、る、後、の、冥、
夫、事、を、つ、ま、と、し、佛、を、つ、ま、と、し、佛、の、内、に、を、り、テ、
お、佛、
和、易、と、云、ふ、事、と、云、ふ、事、は、佛、の、兄、は、い、て、す、う、ん、

疾如七十九あり入戒ノ陽成院成年八十五あり而凡
四十九日の出家文大に朝圓作られし詞云其
昔後世婆娑世累十世之計ヤ毎毎一釈伽如
来一年之兄ニト

佛、の、い、橋、の、花、を、れ、口、は、の、世、を、人、と、や、り、
こ、い、し、ヤ、一、子、自、宮、禁、上、は、い、の、石、橋、と、橋、と、を、
相、流、の、う、こ、こ、と、こ、こ、と、流、く、ら、う、と、流、ま、い、は、花、人、お、し、
手、の、流、こ、と、あ、る、心、を、や、め、り、

一佛ノ別

○ア、筑紫、天馬沖、こと三月ノ別ノ一佛

○花橋、花血、権子、灯出、ちの伴来、
陸、咲ら、美目、雨加、萩、六、
馬、月、

二月廿七日、
○山崎より阿比の川へ行くとき、
王宮より阿比の川へ行くとき、
阿比の川へ行くとき、
阿比の川へ行くとき、

一 佛の名唱
換り冬、十一月十九日、
三ヶ日のり、
佛の名唱、
佛の名唱、
佛の名唱、

夫、
三世の師の名唱、
三世の師の名唱、
三世の師の名唱、
三世の師の名唱、
三世の師の名唱、

一 生ホキ
又、
又、
又、
又、
又、

一 不ホキ
不、
不、
不、
不、
不、

て谷のよれぬとよめり
花のいづらん人入の谷の地はらしくもあたま

一 時鳥

鳥花のひらりと遊べぬ。宿附の道
入てすべし。これい生類かう。●物々しう河内府
好ましくひし。●教人の志をこころと喜ぶ。悲切
の巻と愛感。吟腸の鼓吹とす。●荆楚の歳時死
の杜鵑の啼先陣を列進とて。●蜀の三
成。又登瀛洲の少祥と。●俗言のふれ
●血子鳴と。●熱鳥と。●口はに肉生れ。●肉は
て血のちう。●或古歌。

●やの杉木まきと。●たきまきと。●やまの杉
長州の妻の友は。●やまの杉木の中。●時鳥の死
せと。●うろ箱。●入。●三日月の末。●の長を。●
ころ。●あつて。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●
の。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●
の。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●
●五原集の内。●雪の生卵中。●霍公と。●うろ箱。●
も。●あつて。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●
と。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●
●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●
●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●

●田長鳥。●田歌。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●
●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●
●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●
●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●
●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●うろ箱。●

●鶏

早苗、楊、菖蒲、葵、柳、杉、
松、萩、猿、旅、思昔、忍、
下、破、受、陰、辛、苦、豆、
池、夜、鳥、山、幸、望、山、世、
青、雨、軒、の、あ、め、号、松、原、
乳、麦、標、鳥、山、立、花、外、
月、味、子、物、葉、花、谷、
信、火、杜、少、牧、中、山、馬、
淀、水、七、川、花、里、橋、舟、
西、津、女、淡、路、女、水、馬、子、
乱、世、障、障、山、名、取、川、
信、手、鳥、山、海、橋、立、山、
肉、皮、山、狭、花、山、山、
橋、花

●鳥のよれぬとよめり
●鳥のよれぬとよめり
●鳥のよれぬとよめり
●鳥のよれぬとよめり

古 山の中 幸望の山の峰 鹿の子やうおしてる
まじり 鹿の子やうおしてる 鹿の子やうおしてる
天 雲の村の井をまて 鹿の子やうおしてる
ろ 鹿の子やうおしてる 鹿の子やうおしてる
夫 鹿の子やうおしてる 鹿の子やうおしてる
夜の下 鹿の子やうおしてる 鹿の子やうおしてる
鹿の子やうおしてる 鹿の子やうおしてる
鹿の子やうおしてる 鹿の子やうおしてる
鹿の子やうおしてる 鹿の子やうおしてる
鹿の子やうおしてる 鹿の子やうおしてる
鹿の子やうおしてる 鹿の子やうおしてる

一 楯

冬 秋分 柴薪 木より 勻 庄 合
霜 冬 井 又 陸 云 氏 又 云 氏
わ び 材 木 の 切 ぎ 小 楯 拙 と 同 山 里 託 藤
嶽 津 根 焼 楯 拙 と 同 山 里 託 藤
焼 木 と 同 大 変 多 岐 山 里 託 藤
伊 せ 根 下 安 房 山 里 託 藤

武 彦 山 里 託 藤 又 根 木 と 同 又 山 の 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤

山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤

一 菩提

佛 果 の 果 名 子 子 子 子

ち 念 殊 市 八 海 蓮 法 僧 堂 庭
氣 皮 團 塔 抄 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤

山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤
山 里 託 藤 山 里 託 藤 山 里 託 藤

一 螢

火焔の女なり年雅は螢火即焔と
之より採撰字流と蝶と訓せり
軒又舟虫なりともあり 去不より焔燿に元うま
りつ不とりふとも

- 雨 江 滝 泉 中川宿 野亭 田家 井
- 小舟 管交 萍 竹 柳 蒲 水子
- 篠 早苗 葛 灼灸 羅神 粟心 狐火
- 池 星月よ 夕信川 怠 舟雨 軒
- 秋川 荻 蛙 伊の伊の沼 魂 西井不
- 欠 篝 庭 五州 芦 羨燄 野ノ又
- 光 王百令 雲津赤 尾炬 唐庵 夕立
- 立炬 橋 谷下川 鶴川 川也 車 色夜
- 扇 几帳 星 漢火 草電 櫻 紫陽花

● 螢の括束の内は長夏より此のれが焔
也の意より螢の星は螢の螢なりて 螢
鳥雁のほつとれる鳥のこもと信りては 螢
或は螢をうらほよあめらあめらうといふと 螢
こはねのうらほよあめらあめらうといふと 螢
よあめらあめらうて 螢 中入事あるを 螢
といふるなり

夫 中雨のやの草なり肝持ありあめらあめらう 螢
新 螢の星の螢を螢とての世のこをあつる 螢
螢をあつるなりて 螢 螢の車風うさ事なり

軒道は枝の葉なり枝は葉なりて 螢
この文華の螢火は枝は葉なりて 螢
あまのこはねの螢火は枝は葉なりて 螢
の螢をうらほよあめらあめらうといふと 螢

右言の草は螢火暗者知杖楊柳川に丁長秋ト
いふはのらあしよめりてを信りてあつる
夫 水はこはねの螢火は枝は葉なりて 螢
本 螢の星の螢を螢とての世のこをあつる 螢
右言の草は螢火暗者知杖楊柳川に丁長秋ト
いふはのらあしよめりてを信りてあつる

この螢火は枝の葉なり枝は葉なりて 螢
この文華の螢火は枝は葉なりて 螢
あまのこはねの螢火は枝は葉なりて 螢
の螢をうらほよあめらあめらうといふと 螢

古比のあこれ、伊弉册の彦も、伊弉册にほつて、
れてと申又つれ、まのまの世のほつても、
あふぬこも、足さう、金枝経子妻と、
絆と、説くところ、の形、伊弉册、
と、あつて、伊弉册、伊弉册、
人、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
古、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、

一、洞

ほつと、あつて、あつて、あつて、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、

○谷、泉

伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、

伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、

夫、伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、

一、螺貝

伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、

○戰場、首領山、将童、山、山、怒猪

伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、
伊弉册、伊弉册、伊弉册、伊弉册、

夫 恩徳のまのちからに妙もその松はあつり貝は安
りよ又その貝とて言ふれ美事止存ある森

一 鳳凰

色の香し 赤梧桐 少栖赤竹実
少食 赤醴水 少飲 赤明時 少食
夫 白く梧桐の栞は多のまの妙の妙のつらも言ひ
ま 慶の地は梧桐の二はあつり 少飲

一 宝樹

宝樹 宝樹の本とあつり 字言ふても
神 善徳樹 教舞 蓮華 法定 後運
行 少涼 極楽

天 雲や七き宝樹は車かへん病はさの夕が
他あつり 宝樹は多のまの妙の妙のつらも言ひ
宝樹は多のまの妙の妙のつらも言ひ

一 法華經

法華經 法華經 水汲 巨吉の妙
ち 雲 宝 快 神 徳の 金山城

か 法華經を我の事いさう 善徳樹ははては元皇
本 法華經 善子のまの妙の妙のつらも言ひ
法華經は多のまの妙の妙のつらも言ひ
この法華經は多のまの妙の妙のつらも言ひ
岳の善徳神師の徳の妙の妙のつらも言ひ
乃 法華經は多のまの妙の妙のつらも言ひ
ては法華經は多のまの妙の妙のつらも言ひ
の先君とて平成の傳のせし

一 反古

反古 反古の反古は多のまの妙の妙のつらも言ひ
安徳作の筆吏平といひ 反古の反古は多のまの妙の妙のつらも言ひ
字の雲板少の情貧以反古 反古の反古は多のまの妙の妙のつらも言ひ
少の反古は多のまの妙の妙のつらも言ひ
も 善徳は多のまの妙の妙のつらも言ひ

一 鉾

鉾 鉾の鉾は多のまの妙の妙のつらも言ひ
とす 鉾の鉾は多のまの妙の妙のつらも言ひ
を 鉾の鉾は多のまの妙の妙のつらも言ひ
或は 鉾の鉾は多のまの妙の妙のつらも言ひ
も 鉾の鉾は多のまの妙の妙のつらも言ひ
以物も 鉾の鉾は多のまの妙の妙のつらも言ひ

と訓る典略に双枝為戟早枝為女と云ふ多り
○或元々多事申の事と云ふ是は架
ノ字とあり

○百段、直倍、送汗、入口、辨、魏帝ノ古
舟上、馬、馬、香、岩戸、庭火、
板、沖手、沖茶

○只云の許の河ももめ候も人もと云ふ也
夫、庭火、三子巻の許と有るは、若の若に若は道朝
生野、沖のほは枝をて降は及らふと云ふ

○此の許の河のつとて云ふ也
此の許の人の許はすはせゆのこまはらひと云ふ
此の許の許をあらはすと云ふは、且めめ言の許

一、叢祠

○倉もよめつといふ者叢祠といふやうに、不の秀の
かてまをよめつといふ者叢祠といふ木、本、守、守、之、社
ことと云ふ

○白本綿、伝運、香居、井恒、表、枝、田、志、砂

一、星

○此の許の河のつとて云ふ也
此の許の人の許はすはせゆのこまはらひと云ふ
此の許の許をあらはすと云ふは、且めめ言の許

○小の石星の星と云ふは、一、二、三、の星の星へん
石と星との子細くつへ、史、元、元、星、名、と云ふ
○占星、占星、天、武、元、と云ふ、船、東、の、星、
物、あり、又、星、と云ふ、器、は、占、と云ふ、星、と云ふ、あり
○星、形、と造、つ、道、東、井、家、の、意、と云ふ、此、知
毛、人、も、因、あり、○半、は、星、と云ふ、と云ふ、論、の、秀、門
関、子、押、捧、打、月、と云ふ、と云ふ、○、い、れ、星、の、明、星、あり
先、子、の、星、と云ふ、星、と云ふ、

○梅、堯、喬、喬、長、理、火、火、串、巡、村、丁
楊、川、藤、子、楊、霜、為、馬、秀、時、雨
青、南、酒、舟、情、沖、玉、信、島、賢、人
三、の、東、南、三、次、つ、し、梅、雪、西、宮、三
白、果、關、鷺、月、甘、菊、夏、夜、候
か、り、火、事、也

夫、天、の、星、南、の、星、と云ふは、何、の、星、と云ふは、い、と云ふ
この、星、と云ふは、星、と云ふは、
此、と云ふは、星、と云ふは、星、と云ふは、
夫、人、と云ふは、
○、星、と云ふは、星、と云ふは、
夫、人、と云ふは、
○、星、と云ふは、星、と云ふは、
夫、人、と云ふは、
○、星、と云ふは、星、と云ふは、
夫、人、と云ふは、
○、星、と云ふは、星、と云ふは、
夫、人、と云ふは、

ふ
この欲の三つをいふ事なり
思ふ事あるの事なりといふの同様の事なり

兼光を子陵光武帝の同友同字ありあり
平は光武帝天子と成り天子陵の川方なり
合してありし事ありて伴光の羊裘をきて
燭を形しされし事ありて思ひて扱し未だ同
て伴光と混りし事ありて伴光の羊裘をきて
司天友妻の事ありて伴光の羊裘をきて
驚故人知るべし則以て子陵神諱大夫拜云々
耕一畝五山一畝世約七里離殘生ノ事と云々
如嚴茂離ともいふ事あり

△万載戦末一末日 五星明張振堂條

一長庚星 反に太白星に奉燈長庚ト云
○反山 雲木野、雪戸、嶺、林、海、川、
夫よむいふ事ありてその月をもちに犯るべし
といふ事ありてその事ありてその事ありて
扇子ついでにその事ありてその事ありて

此の如く
夫の如く
夫の如く
夫の如く

一星合 七をとりてその部あり
夫の如く
夫の如く
夫の如く
夫の如く

一星祭 星東海走
夫の如く
夫の如く
夫の如く
夫の如く

一 星月夜 一葉並長公の元ハ星月夜ハ星ハ
月夜ハ朝日のおハハ星月夜
双ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
布ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
遠ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
あるハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
夫ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜

一 星詠 星の夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜

○ 九重庭 食人、七女子

天の宮ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜

一 星月夜 百葉並長公の元ハ星月夜ハ星月夜
星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜

○ 弟美 西面の庭、石上人、石階上人、石世

星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜

一 星月夜 年中行事教ハ四方教子
元日星月夜ハ天子星月夜
も星月夜ハ折ラセテ折ラセ

○ 長軍夜 長軍夜ハ天子の長軍夜ハ長軍夜
長軍夜ハ長軍夜ハ長軍夜ハ長軍夜

星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜
星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜ハ星月夜

一 浦木路 浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路
浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路

浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路
浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路
浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路

浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路
浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路
浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路ハ浦木路

●倍之部

一海^ハ亭^ダ

日本北一海^ハ亭^ダへん^ハとあり
又^ハ亭^ダ上^ハ字^ハの^ハも^ハ入^ルと判^セル
と^ハ通^シ海^ノ便^ニ利^シ三^ノと伊^セ河^ノ隈^ノ津^ノ子
野^田あり海^ノ傍^ニ之^レ百^ノ餘^ノ子^ニ疾^ク海^ノの^ハ海^ノへ^ハ入^ル人^々志^ス
沖^ノの^ハ船^ノと^ハ身^ノを^ハこ^シ●或^ハ時^ニさ^シと^ハあり^ハ浪^ノは
の^ハ一^ノより^ハ連^テて^ハ浪^ノの^ハ子^ノ旬^ノ也^ト言^フ事^ト
云^ハベ^シと^ハ浪^ノの^ハ名^ニあり●世^ニて^ハこ^ノ事^トあり
○舟^ノ舟^ノ入^ル以^テ波^ノ鼻^ノを^ハ海^ノ亭^ニ玉^ト
ほ^シん^ハと^ハあり^ハ中^ノの^ハ事^トあり^ハと^ハあり

一障^ハ

阻^ル障^ノを^ハと^ハあり^ハ重^ク断^ルあり
○中^ノ衣^ノ關^ノ重^クた^リ恒^ニ在^リ波^ノの^ハ海^ノの^ハ
尾^ノ川^ノ地^ノ同^ク了^ル人^々分^ルは^レ親^ク也

● 登之部

一戸

門戸とくよあひの通る事とく
在城郭白門在登堂曰戸とく

西六、これ其さる、我邦の登も同一、わつと日本
の制とく、遺戸事、戸とく、**○**決代
此、中門とく、よあひ、川門とく、ま
り、これ、由良の、久志の、とく、これ、は、な、成
へ、**○**屋、ま、と、用、い、あ、く、**○**門、と、同、

- 軒、**○**外、**○**内、**○**恒、**○**刑、**○**虫、**○**十、**○**う、**○**初、**○**良、
- 萩、水、雞、葉、花、松、核、を、**○**号、**○**牛、
- 海、良、**○**り、**○**や、**○**吾、**○**杜、**○**龍、**○**車、**○**森、**○**庭、
- 核、**○**月、**○**夕、**○**良、**○**振、**○**を、**○**五、**○**角、

此、**○**萩、**○**の、**○**さ、**○**の、**○**花、**○**の、**○**下、**○**り、**○**と、**○**水、**○**ま、**○**の、**○**核、**○**の、**○**け、**○**れ、**○**の、**○**号、**○**の、**○**牛、**○**の、**○**海、**○**の、**○**良、**○**の、**○**り、**○**や、**○**の、**○**吾、**○**の、**○**杜、**○**の、**○**龍、**○**の、**○**車、**○**の、**○**森、**○**の、**○**庭、**○**の、**○**核、**○**の、**○**月、**○**の、**○**夕、**○**の、**○**良、**○**の、**○**振、**○**の、**○**を、**○**の、**○**五、**○**の、**○**角、**○**

此、**○**萩、**○**の、**○**さ、**○**の、**○**花、**○**の、**○**下、**○**り、**○**と、**○**水、**○**ま、**○**の、**○**核、**○**の、**○**け、**○**れ、**○**の、**○**号、**○**の、**○**牛、**○**の、**○**海、**○**の、**○**良、**○**の、**○**り、**○**や、**○**の、**○**吾、**○**の、**○**杜、**○**の、**○**龍、**○**の、**○**車、**○**の、**○**森、**○**の、**○**庭、**○**の、**○**核、**○**の、**○**月、**○**の、**○**夕、**○**の、**○**良、**○**の、**○**振、**○**の、**○**を、**○**の、**○**五、**○**の、**○**角、**○**

一鳥居

和名抄、雞栖と云うなりとあり
香居の鳥居 泮社、必香居
あり体代比の長鳴寺の鳥居なり起建の衡門
あり又酉陽雜俎、東門雞棲木ト云ふも
之をてり華表トすのあり。古事記、鳥居のつが
えの香居耶しとまれのるとと云う法名の宮社と懸え
るものあり。●香居の制、二柱燭木其木三
端總合葉葉葉刺木の各あり其木の皮付の木の
三條の二柱の太若、一尺似き香居あり麻あり悶ス
と云ふ三光の香居とス總合の也に山王の香居も
其木の也、又三角の香居あり曾足ト云ふ也、又
は格律に吉石香居ト云ふは二柱四角あり

●延喜式、出陣典、腰車も香居ありと云ふ所にて
送葬の舟、うんの舟も香居ありと云ふ所より
移せる所なり。●禁旗秘物、其中に香居ありと
類聚雜要抄、人家も香居ありと云ふ所のあり
明意凶事、出陣典、白木の香居を作ると云ふ
大木の圓の死人を焼く所ありと云ふ所より
ゆ友長友の香居を再と建り、車もあり、香居の
上廟祀子を再あり、是れ華表と云ふ所なり。●北山抄、香居は
の香居也、又香居ありと云ふ所なり。

ハ一基とし、●香居の制、其木を三つ一
衣折する居あり、●西抄、香居を華表
と云ふ、香居ありと云ふ所なり。

- 鳥、 我、 野宮、 福所、 柳、 杜、 松、 坂、 坂
- 香居、 天津小、 山本、 司、 相良、 坂
- 山中社、 石橋

△霜降華表、既十年

凡、香居の制、其木の朝鳥鳴り、其木の山本
と云ふ所より、香居ありと云ふ所なり、香居の
上廟祀子を再あり、是れ華表と云ふ所なり。
香居の制、其木の朝鳥鳴り、其木の山本
と云ふ所より、香居ありと云ふ所なり、香居の
上廟祀子を再あり、是れ華表と云ふ所なり。

一鳥跡

●香居の制、其木の朝鳥鳴り、其木の山本
と云ふ所より、香居ありと云ふ所なり、香居の
上廟祀子を再あり、是れ華表と云ふ所なり。
香居の制、其木の朝鳥鳴り、其木の山本
と云ふ所より、香居ありと云ふ所なり、香居の
上廟祀子を再あり、是れ華表と云ふ所なり。

一遠山

延喜式、遠山抄、遠山は
のるれんよあまひと云ふ所なり、又遠山と云ふ所のなり

としくつろく。遠の毛をさへくち中子蕙の毛如く子孫しやを遠の毛とし

○丁、花、池、雪、山、江、野、鳥、冬、

海、舟、舟、花、朝、暮、冬、

三月、花、花、夜、月、日、

比、良、雪、舟、舟、月、日、海、

黛、雅、花、

天、道、から、遠、く、を、さ、へ、く、ち、中、子、蕙、の、毛、如、く、子、孫、し、や、を、遠、の、毛、と、し、

又、遠、く、を、さ、へ、く、ち、中、子、蕙、の、毛、如、く、子、孫、し、や、を、遠、の、毛、と、し、

又、遠、く、を、さ、へ、く、ち、中、子、蕙、の、毛、如、く、子、孫、し、や、を、遠、の、毛、と、し、

又、遠、く、を、さ、へ、く、ち、中、子、蕙、の、毛、如、く、子、孫、し、や、を、遠、の、毛、と、し、

一 遠妻

夫、子、を、さ、へ、く、ち、中、子、蕙、の、毛、如、く、子、孫、し、や、を、遠、の、毛、と、し、

又、遠、く、を、さ、へ、く、ち、中、子、蕙、の、毛、如、く、子、孫、し、や、を、遠、の、毛、と、し、

○高安里、舟、舟、月、日、海、

舟、舟、月、日、海、

舟、舟、月、日、海、

一 舟

舟、舟、月、日、海、

舟、舟、月、日、海、

舟、舟、月、日、海、

一 舟

舟、舟、月、日、海、

舟、舟、月、日、海、

舟、舟、月、日、海、

一 舟

舟、舟、月、日、海、

一 舟

舟、舟、月、日、海、

舟、舟、月、日、海、

舟、舟、月、日、海、

舟、舟、月、日、海、

一 豊御後

大嘗令々(大板子)り一節

百夏、大嘗人、御川、てまよ

夫君は二交まの川水すまはてまよの御後(注) 體
の建曆三(十)年の御後二交行れり次の御座あるの
許へかつたつと云々

君代のまよ(まよ)は御後二交(まよ)の御座

一 豊旗雲

百夏(まよ)の御座(まよ)は御後(まよ)の御座

は有る御自良至御時人謂之旗雲(注) 御中抄
に海軍のよ(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座
こ(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
の(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
る(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
古(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座

一 豊采登

祝詞或は朝りの御座(まよ)の御座(まよ)の御座

金(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座

一 公言人

と(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座

を(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
作(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
め(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
よ(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
の(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
通(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
あ(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
の(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
此(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
執(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
中(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
御(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
今(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
市(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座
之(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座

天(まよ)は御後(まよ)の御座(まよ)の御座(まよ)の御座

一隣

とれつといふは其の多隣くらひの
反りといふれつともありしる
うしてよめつ●あせとありて
りつといふれつともあり

- 梅、丸木、畦、細道、夕巻、平部、腰、
- 芦垣、竹垣、ま道、軒松、衣の巻、野分、
- 菅元、月、唐菓、笛、煙、あや、
- 花、松、雞、霧、萩、萩、出、

上六 軍人の軒を垂し住むらう近き隣を隣とせしむる
二の上家相保の意を云ふ
中恒といふは中恒といふ名の庭にうすはあめ月が尹
の場 動かしらるるに中恒といふ名も多し
この書に向き萩をとりて亡友松原といふ古事之
夫いふは中恒の字に中恒といふ名も多し
△派樹重信蓋四隣
○あまの交隣とてこそ人々の親をわかれれば
隣をうす中恒といふ名の三選をいふ
夫隣をぬねのほやよ中恒といふ名も多し
中恒といふ名も多し

一虎

とくといふは人ぞともの多隣と
之り 唐傳に或もといふはあり
一虎子其入虎を放虎といふ六の発語るれ
ハ傳人といふはありて多しといふ
舞といふは或いふ舞の語といふ ●虎を友
といふ術をいふといふ 舞明死といふ ●虎
の毛を惜人の名を惜といふ 金屋故事
豹の死並皮人死並若とていふ ●虎の皮
左傳に率比といふは虎皮と率率といふは後日
布也といふは虎皮といふといふ 大虫といふは俗
稱に虎美といふといふ ●虎頭草といふは
官子誕生の條に古の伝言の内傳といふ
先といふといふ 本草に虎爪骨作辟邪要
多歴言に虎爪辟鬼物生小兒安陽俗
之辟惡三言去疾亦醫疔鬼瘡長大些病
といふといふといふ 成し ●虎嘯而川起の
語に考極極といふ ●虎の虎の虎のといふ
非人人を恨てといふといふ

- 厚汚、鼻、眼、杜執、楊香、又と山の中
- 竹、林、野、他、妻、三、山

辰 人の口、谷、一丈、海牙の少の聲
西ま、鞘、青反

六 汝つて世の移りてを種人より虎公を世に傳へ
しよ 汝の身より 衣のきつるは世の好しむ也
とれは、摩の薩埵國中、鹿の虎のふをき
ふるをてて衣をぬき世の好くけては
こそあてたる吉事、金先内狂くはるる、酒
陽雜俎、虎殺人徳三屍を自解衣方良
計の中

水國の虎伏のふをくしむるは、
至る人他よりよあり
夫人公を何れをいあはれとて、
世中にとれは、
海らあてたるは、
世のた刀より、
この槍の女の、
又、

一 囚 トウシ
とくいなし又とくあてはしとあり
巴は、又の又とくあてはしとあり

○ 公信長囚きて獄中よりあるは、
宥せられしとあり

○ 丁文、
○ 鶴羊、
○ 薙草、
○ 烟、
○ 佃、
○ 佃魚、
○ 水舟、
○ 鯉

一 殿 トウシ
とのとよあるは、
始とて、
よするは、
各とありて分して、
又、
内、
赤、
良、
も、
又、
を、
所、
逢、
ち、

とのとよあるは、告殿の側大戸道より
始とて、此代筆、
よするは、又戸若の多、
各とありて分して、又、
又、
内、
赤、
良、
も、
又、
を、
所、
逢、
ち、

○神子、七夕、四丁、赤井、涼、夕、
 選水、池、柳、花、花、花、花、花、
 尾、鬚、鬚、鬚、鬚、鬚、鬚、鬚、

○神子、七夕、四丁、赤井、涼、夕、
 選水、池、柳、花、花、花、花、花、
 尾、鬚、鬚、鬚、鬚、鬚、鬚、鬚、

○神子、七夕、四丁、赤井、涼、夕、
 選水、池、柳、花、花、花、花、花、
 尾、鬚、鬚、鬚、鬚、鬚、鬚、鬚、

一 沟殿 東邊、ともあり、取巻、とまに、
 夜、の、池、と、い、又、狭、衣、子、川、の、上、
 子、造、り、み、け、う、つ、つ、と、の、を、と、く、う、
 約、及、の、院、の、六、条、止、同、院、東、号、六、條、院、光、孝、天、皇、

○水登床 花、花、涼、号、川、上、
 大井川、堰、月、信、吉、松、

○殿守 巨、及、と、日、本、純、和、春、抄、の、と、の、と、う、と、よ、
 め、り、異、言、を、う、く、の、伴、出、ぬ、る、ま、の、
 仕、人、と、い、

○花園生 水、心、菖、戸、水、庭、時、申、朝、唐、
 中、華、菖、菖、菖、菖、菖、菖、菖、菖、

一 痛直 日本、純、和、春、抄、と、よ、い、と、よ、い、と、よ、い、と、よ、い、
 集、子、持、和、と、よ、い、殿、后、ま、あ、り、
 小、虫、の、調、和、禁、中、以、捕、第、下、と、申、殿、后、の、女、之、
 宮、と、い、と、よ、い、と、よ、い、と、よ、い、と、よ、い、と、よ、い、
 と、の、い、と、の、は、衣、原、式、と、い、和、名、を、い、の、名、を、い、と、東、子、
 也、伊、と、ら、う、俗、子、の、ま、ま、は、衣、
 八十八

○痛直 日本、純、和、春、抄、と、よ、い、と、よ、い、と、よ、い、
 集、子、持、和、と、よ、い、殿、后、ま、あ、り、
 小、虫、の、調、和、禁、中、以、捕、第、下、と、申、殿、后、の、女、之、
 宮、と、い、と、よ、い、と、よ、い、と、よ、い、と、よ、い、と、よ、い、
 と、の、い、と、の、は、衣、原、式、と、い、和、名、を、い、の、名、を、い、と、東、子、
 也、伊、と、ら、う、俗、子、の、ま、ま、は、衣、
 八十八

衣あつら体やしらてうとあひまぬともか又
衣冠をとりし苦肉ありてい宿也宿衣や
こよの所希へおぼしけりし宿衣との衣冠
の1しとつう禁秘抄施難陀とくしよるは
○宿守舟の華中夜行に左近司に亥子時左近
司に七時時参りたる事

○夜舟夜、大言、物忌、精進、丸夜、
灯、火種、楯、雨杖、豆、まふ、
小進、浮玉、空法、弟、山崎月

少校のいよの宿屋様おらうとあるの辨は宿
こい袋の様のみは正小言し、ちう振あるとあひ

一 外衛

禁内外のちとく百寮割要抄に
○どのえとくるといついた右の衛門の陣やうも支入
せしりし○一元より外重中き内きさうとれいとく
乃假々ううやうとく

○楯、弓、物忌、蒲倉、六十、雷、百敷
山崎月、九重、兼、柳、山崎、尾音

夫、
山崎、
尾音、

一 木賊

とくさしよあまの物やうとく派磨す
磨字の若菜のやうもよせりあぐよあう

○この東山、月、本意、群衣、高の事

○木賊、
山崎、
尾音、

一 とくさ

城とよあつ連あつねとあつ
ことあつねの事

○且年集、
又鴨の子あつあつ、
又鴨の子あつあつ

一 昔

とあつよあつ、
お若る

昔の事とよあつ、
覆舟、
俗、

あらしと刺せり

○芦火、こは焼、こは火、海老、川子、まき、
酒子、雲、雪、霜、霰、霧、雨、
雲、霧、雨、雪、霜、霰、霧、
雪、雨、霧、霜、霰、雪、
雨、霧、霜、霰、雪、
雨、霧、霜、霰、雪、
雨、霧、霜、霰、雪、
雨、霧、霜、霰、雪、
雨、霧、霜、霰、雪、
雨、霧、霜、霰、雪、

此等ありて古歌よもはしほの一夜なれば
せらぬ物もちのまの言し雨の降る夜も
天の雲の懸き若くは下ればの雲もひとも
夫の海客等の言の程に海客も其言をく

一泊

お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては

一泊舟 舟も同 妻の言はし 舟山子 舟
舟も同 妻の言はし 舟山子 舟
舟も同 妻の言はし 舟山子 舟
舟も同 妻の言はし 舟山子 舟
舟も同 妻の言はし 舟山子 舟
舟も同 妻の言はし 舟山子 舟
舟も同 妻の言はし 舟山子 舟
舟も同 妻の言はし 舟山子 舟
舟も同 妻の言はし 舟山子 舟
舟も同 妻の言はし 舟山子 舟

一采

お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては
お岩抄にありともありてまをては

このころよりあつちつちつはさうやくしてはるる
女とのよきとらうらなをほつたさうをいふれい
ところへといふとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
夫の年長谷のまはつとつとつとつとつとつとつとつ

一 聖交

ところあつちつちつとつとつとつとつとつとつとつとつ
石の井金の浅の糸も聖交の夫
名は金浄花といふ子あり聖交の夫あり
種ありて花は黄色也
七夕 彦早 晴る古満 只 毎大 秋
五相 梅 茶 川女 中春夜 妹
由波女 野多つ房 向いの野へ 色の暮花
秋の降 雲 海へ 浅見 藤 草花
唐牙 手取 果 古昔 暮夜 虫
ゆき 組下 春の 舟前 佐 夏野
州 白川野 大良村 空橋の 古令 病
雨 菖 蓮

古きとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
この降より事交の糸をいふとつとつとつとつとつとつ
けつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
夫建の面の浅の糸の降をいふとつとつとつとつとつとつ
聖田の糸の降をいふとつとつとつとつとつとつとつとつ

三夜あつちつちつとつとつとつとつとつとつとつとつ
おぼろの朝のつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
百の梅をいふとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

夫梅の糸の降をいふとつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
お梅の糸の降をいふとつとつとつとつとつとつとつとつ
古梅の糸の降をいふとつとつとつとつとつとつとつとつ
お蓮の糸の降をいふとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
この秋の糸の降をいふとつとつとつとつとつとつとつとつ
あつちつちつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
梅をいふとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
梅の糸の降をいふとつとつとつとつとつとつとつとつ

一 常盤

常盤とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
木常盤本常盤 万の子常盤の糸とつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

柳萩らよの勢きも用ひてし中きいお併し
又中らうをい若るとも用ひてし中きいお併し
却ちて物言ふ付い若葉を天子へ申すか三
ことらう。●**柳**は枝葉を天子へ申すか三
さめ殿と人もいれこてはる。●**萩**は
の物にの中きいお併し野よあうゆりぬ
らうありてし中きいお併し。●**萩**の枝
はらうはしてし中きいお併し。●**萩**の枝
るり萩の木の花あり少き萩の枝は毒
夫つねにるさめらう萩の金の葉を申すか三

一鳥

と鳥のよくは萩をいお併し
又鳥のよくは萩をいお併し
之う鳴鶴らよもあう。●**車**はどの尾と申す
若び葉よと申す。●**鳴**は又小萩と申す
或は冠の鳥よと申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
造勢の尾と申す。●**萩**は萩と申す
のう弾よと申す。●**萩**は萩と申す
美らうと申す。●**萩**は萩と申す
内宮の萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す

夫きある井萩の柳雁同くは萩をいお併し
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す

一麻

萩物と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す
●**萩**は萩と申す。●**萩**は萩と申す

一友

朋友と申す。●**友**は友と申す
●**友**は友と申す。●**友**は友と申す
●**友**は友と申す。●**友**は友と申す
●**友**は友と申す。●**友**は友と申す
●**友**は友と申す。●**友**は友と申す
●**友**は友と申す。●**友**は友と申す
●**友**は友と申す。●**友**は友と申す
●**友**は友と申す。●**友**は友と申す
●**友**は友と申す。●**友**は友と申す
●**友**は友と申す。●**友**は友と申す

● 灯の星の丁子びく老さるる我在燈華報
報在春雀此るくくくくく ● 岑の灯の九月
三百北守を帝院あつて ● 九の数の灯の七夕
系の丁成し ● 枝の灯の燈籠の事
● 市の灯の佛名の灯子ととも火く一舟佛名
の備にあせり ● 燈籠へくく老さるるひの列
子に燈將滅去必大明とくくく

● ち 佛 縁徑 行の 法 雲 菴
社 沖 言中 字 暮 舟舟
文 舟舟 醉中 机 骨 雪 止堂
五虫 明名 友舟 長多 漢 山伏
月 旅々 雲雲 山雲 少雲のぼけ
窓 辰 夏 園 雨秋 七夕系
照射 燈系 縁夜系 雲系

夫 燈より燈へ照し灯の心なるも燈の心なる
山を月をわける燈の心なるも燈の心なる
ちるやよとの泥に障るを燈の心なるも燈の心なる
ちるやよとの泥に障るを燈の心なるも燈の心なる
ともゆきまうとも鳴きともくくく 形燈を院
と臨とともくくくともくくく
● 山の旅の中はともくくくの人よわのくくく
● 燈をてともくくく山雲のくくくくくの灯なる

● 珠ののつちの夜燈の只一灯はともくくく而の灯象
● 灯の心を海へくくく物象ともくくくくくの二名を
玉 洋へくくく兩枚の園のくくくくくの灯の末院
● 聖人の教をともくくくくの中のものよの灯
● ちくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
● 九月廿三夜中早とくくくくくくくくくくく

知

一乳

ちよまの乳いふに、名り友子
大うの乳房とよめり

● 乳血ト同敷もや、老子煙血化乳ト云
いり ● 俗に乳をちよとよぶて苦菜ヲち
よとよめり

一仕親 雀南の妻唐夫人の孝切ノ事

於人母の乳のちよとよめり、老子煙の血をよ
こい後伝の伝されり、母の事とよめり、人の伝を
母の重後をよめり、ちよとよめり、衣と活件、かくよ
てつり、りしちん ● 母の乳代純に火炎を
よめり、火叢の火成、一靈具死、始とよめり
されいやすし、解のつてけらちちちちちち

● 百子、ハチ、母を病む乳を飲り、それを行基
墨煙 三年飲母乳百八十石
孝行派 老親思鹿乳ヲ掛襦毛衣

一千二百年

ちとせしよめりふ千いれり累こ
年せとせしよめり二年二年
より百歳あしりふいりふりとの轉せり
万歳とりのいれせほせおころこのことと
ふりてり

●北ノ國 領山止外ハ命主せしこと

●水陸 美河千午年序しりてり

●君ヲ祈 娘少松

●為法仕

於 法苑珠林云 持師王の孫は橋後法はては行基
とい 兼言因位ノ時河移山人ノ子成はては持業及水
於 兼設食一膳のしんせよあり

●松虫

千せとて養料とよめりてや松虫のききき

この松とてふりてり又うろあてふりてり千
と色のあしりてりふりてり

●改 林

千せとて改のききき

●六月夜

松 陰涼日ひ千せとてのて安き 玉井水の松の陰涼光

●兼 ●秋

千せとて下流の兼のききき

●石ノ床

千せとて千午年止るてり

一父

ちとせとてりてりてり

●阿耶もよあり ●曲礼 生曰父母

●星妻 死曰考曰妣曰嬭 ●梵 父母といひちとせ
てり通る ●ちとせに父母といひちとせの濁りてり

●橋 千せとてりてりてり

●松 千せとてりてりてり

●松 千せとてりてりてり

●松 千せとてりてりてり

●松 千せとてりてりてり

●松 千せとてりてりてり

●松 千せとてりてりてり

●松 千せとてりてりてり

●松 千せとてりてりてり

●松 千せとてりてりてり

●松 千せとてりてりてり

一 父母

又ノ多ト示索ニ母セトクモ

一 人九母あり不謂嫡母淫母養母慈母嫡母出母庶母乳母実母之嫡母とい父の妾を乳母と生れ一正妻とて一正妻母に父再娶一

二妻之養母、幼より他の夫、養育せし者

三妻、正妻母の所生ノ母死レば父母を養育せし者

四母、母の所生ノ母死レば父母を養育せし者

五乳母、乳母といふは、母の乳を代りて哺養する者

六實母、實母といふは、父の妾を乳母と生れ一正妻とて一正妻母に父再娶一

父母をこのち、これを親の楊何ことと

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

松皮、山、大和、松、松竹、

松皮、山、大和、松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

● 蕨、燕、枝、山鳥、春兩、小倉、小松、松竹、

一塵

ちつとよまの教の多し怪塵とて

●大海ちつとよまの教の多し怪塵とて

●ちつとよまの教の多し怪塵とて

●死ちつとよまの教の多し怪塵とて

●五葉、惺井、琴、硯、深法、野分、師

●口や、花、凡

●雲、夕、山、塵埃トあり言山、秋、微塵、只

●日、引、ちつとよまの教の多し怪塵とて

●松葉

●蓬生、霜

●月

●言、代、塵

ちつとよまの教の多し怪塵とて
大海ちつとよまの教の多し怪塵とて
ちつとよまの教の多し怪塵とて
死ちつとよまの教の多し怪塵とて
五葉、惺井、琴、硯、深法、野分、師
口や、花、凡
雲、夕、山、塵埃トあり言山、秋、微塵、只
日、引、ちつとよまの教の多し怪塵とて
松葉
蓬生、霜
月
言、代、塵

●若、同
●佛
●鏡

●旅、夜、床

●星、合、堂

●朝、日

●法、床、友

●立、名

●神、床

●紫、葎

●大、内、山

●伴、出、奴

●玉、葉

●朝、日

●法、床、友

●立、名

●神、床

●紫、葎

ちつとよまの教の多し怪塵とて
大海ちつとよまの教の多し怪塵とて
ちつとよまの教の多し怪塵とて
死ちつとよまの教の多し怪塵とて
五葉、惺井、琴、硯、深法、野分、師
口や、花、凡
雲、夕、山、塵埃トあり言山、秋、微塵、只
日、引、ちつとよまの教の多し怪塵とて
松葉
蓬生、霜
月
言、代、塵

● 諒 梁 劉尚別錄 魯人虞公能雅

秋在声情哀 勤果上塵受學未莫能及
まゝいのおをい果塵とらつて去依り死ある人
よの因ちれしうひうしんかぐうふみ丹
やうのちもさうりももいひぬこもふん

● 雷

雷はまきまはらふさうさうのほらるる雷

● 深法

深法は深き法なり松てさうるる

一 折言

ちひしよあつ 西土 盟河 血さす
まきとさうちあれい夫よふか詞

● 折舟 法ノ舟 舟同 丁ノ 弘折の舟とらふ

折舟は法ノ舟同 丁ノ 弘折の舟とらふ

● 二海 法ノ水 彼舟 舟 六字 神

多き海 育衆 木 田 舟

南海 そつた 内外 神位

● 夫 ありあつてのちのち子蓮きやんは蓮きやん舟言年
いふよりこに蓮きやんは舟きやんは舟きやん
● 蓮きやんは舟きやんは舟きやんは舟きやん
● 蓮きやんは舟きやんは舟きやんは舟きやん
● 蓮きやんは舟きやんは舟きやんは舟きやん

一 近勝

花法 後々 馴り 晴る人
秋の友 衆思

● ありあつて死地人命亦如是

蓮又みあり死すまの近くまきとさう

一 近劣

媒偽 蓮生病 志高
使らるる 悔り衆

一 近衛

双 古徳接 佛名
百夏 手 忍代 橋

● 蓮 ありあつてのちのち子蓮きやんは蓮きやん舟言年
いふよりこに蓮きやんは舟きやんは舟きやん
● 蓮きやんは舟きやんは舟きやんは舟きやん
● 蓮きやんは舟きやんは舟きやんは舟きやん
● 蓮きやんは舟きやんは舟きやんは舟きやん

●古花

神祇... 古花の書は... 古橋 古

●祥月、 凶華、 陽、 凶十一

●各季... 各季の書は... 各季

●各季... 各季の書は... 各季

一 街

ちちいと... 街の書は... 街

一 糙

俵名抄... 糙の書は... 糙

木らば... 糙の書は... 糙

いせ... 糙の書は... 糙

こい人の... 糙の書は... 糙

一 兒

ちごと... 兒の書は... 兒

一 地獄

教教子の... 地獄の書は... 地獄

● 高才女 六字唱、傳、屋凡、佛名、
 金剛、や又の木のらあはほのれぬるを不、
 こいせり代馬こつきの枝人のつぬれるをこい
 よき(あ) 木のらあはほこいよの果いよせし

● 宋花物語 古傳多し地々くの画の内屋凡 杯
 とうてくまらうも日とちうと表ことし中

一 千木

日本北、捨風をちきとよめり、
 風木の多勝ヤ、ことし茅葺と

子木 勝魚あつて禁闕も子木いり、
 の草やよ 却る仍ちてまう 凡 勢をこいせり
 少出(伊七の内宮の内をまき) 舞臺の外せき
 とくよせ千木の庄をまことし

● 伊七、八三、 笹池、 松村、 表、 天降神
 内外まら比、 木と流川、 橋、 白雲

● 凡 庄をまき千木内外、
 ● 久の山 木の橋の庄をまきのり合の庄の色い
 ● 庄をまきやあの内及の御長とあひて呼ぶ白雲の花

一 契

飛代純、約束もちきうとよめり
 手松の多しテ、及子、
 の手とつうせしよて夫婦あふまてよつう

● 月比、影、字しよめり及文選、要字を刊し
 幸に契をよめり契約、ちきひいとよも同

● 姉脊、 文、 新松、 侍又、 親子、 朋友
 行末、 脛云、 赤松山、 人傳、 井手下第、
 赤世、 俊世、 末世

● 占 君をこきせりんをいつていまの松山松とせん
 ● 手 勢り節いせせり高をまき
 ● 旅 及の井手下第川流いせり、
 ● 願 悔いといひし無茶世とよめり、
 ● 三 志、 勢り折る高をまきのり合の庄の色い
 ● 小 活見子とよめり、
 ● 三 志、 勢り折る高をまきのり合の庄の色い

一 茅葺

ちつてい茅葺の、
 ようてちつてい

● 鶴、吉福、雲雀、野、所核、秋
川辺、子とら、五明、野、養菜、虎
● 概して川へのちりすみ来れ、雲雀の床と成り
おしとらる川へのちりすみ来てあつてそらそらうり
● ちりすみの虎い実のとりすみ那え人と成りそら
成りとり

● 利

一 律

● 正ら玉帆、正ら良友、正ら此洲
ちりよちり 正友呂 秋冬の律
一 正、十二律の調とよら一 正のちの秋の殊
すもんらんちりき用りちり 呂正調く
ちり用のまれりちり ● 正のちのちのち
ちりちりちりちりちり 正律ちりちりちり
ちりちりちりちりちり ● 正の秋平洲 呂の
正一敬親、雁馬平、呂律のちりちり 正田
ちりちり 正門、橋入ちり 呂の 正内、喜柳、
ちりちり ちりちり 正のちりちり 正の

一 林間

● 正のちりちりちりちりちりちりちり
● 林百燧燧燧燧燧
ちり

一 龍騰

甲子人、甲子と云ふより
思件、三やと云ふし、其名と
昔騰と云ふより、これ其名

● 甲子の名を記すは、此の龍騰の里宗
● 此の龍騰の文を、此の龍騰の文を、
これ甲子と云ふより、其の文を、
甲子と云ふより、其の文を、

● 此の龍騰の文を、此の龍騰の文を、
● 此の龍騰の文を、此の龍騰の文を、
● 此の龍騰の文を、此の龍騰の文を、
● 此の龍騰の文を、此の龍騰の文を、

一 李夫人

漢の女人、君の寵を蒙り、
めり、死して後、及、
と云ふ、其物を、
と云ふ、又、
と云ふ、又、

● 此の龍騰の文を、此の龍騰の文を、
● 此の龍騰の文を、此の龍騰の文を、
● 此の龍騰の文を、此の龍騰の文を、
● 此の龍騰の文を、此の龍騰の文を、

▲ 奴目録

- 奴 勝軍木 鷲 禮拜 隔衣
- 著 布 呂 鷲 板 玉
- 盜 烏羽玉 匠 淳 布子

▲ 瑠璃 沅轉

● 奴

一 寝

ぬしよめ、
● 寝 ぬしよめ、
● 寝 ぬしよめ、
● 寝 ぬしよめ、

● 寝 ぬしよめ、
● 寝 ぬしよめ、
● 寝 ぬしよめ、
● 寝 ぬしよめ、

● さい香はねる萩の中枝まきと云う通し
と云ふ也

一 勝軍木

ぬすそとある。日本死白膠木もすもぬすとも
よありけ木白膠ありし塗へらわらぬぬと
女々へ尾尾上信この木上地伝信よあつ
この木津津ごまごまといふ渡々の丸木
用のをせしといふ和名抄を撰よありし
といふし白膠机香といふといふ塩麩子夫
塩の伝信の山と云ふの塩ぬすの権印う世

一 鷺

ぬすとありけ推といふ

一 禮拜

和名抄ぬすつくと刊ス百餘を
額井とありけ叩頭をいふ額
衝のぬすといふぬすといふもよありぬすのぬす
るといふもいお終ぬすといふもいふ

叩頭ともあり先の釈教に

● 佛、行、院、精進、海派、信

室、塔、平郡婆、思来世、神糸

一 祈

夫の考べきの世をぬすけか
つる也

一 濡衣

菱万に氣白鳥と潤衣まきと
といふは濡衣といふは、
梅子日本死、陽をかづくともいふ
為すともかづくといふ、されいづく
ぬすぬれ衣といふは、
衣、ぬすぬれ衣といふぬすぬれ衣
衣、ぬすぬれ衣といふぬすぬれ衣
いふは、
ぬすぬれ衣といふぬすぬれ衣
ぬすぬれ衣といふぬすぬれ衣
ぬすぬれ衣といふぬすぬれ衣

衣にかけて置きしすかしく人の衣にさう
 千敷しとくまう) 衣にさあつて
 ●天の下のうらみのあるれをさうして衣にさう
 ●裾衣にさうして衣にさう

止野科、又さ根、三葉山、澤物、類、
 寺今神、洗髮、開加及、水清、
 管、佃川、以取、漢、虫而、
 智花、同床、川社、夏涼、

●衣にさうして衣にさう
 肥後の冬知月尻袴しとさうの衣にさうして衣に
 取のよきさう白指のさうして衣にさうして衣に
 さうして衣にさうして衣にさうして衣にさうして衣に

●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう

一草

形保字法、わらひとよあ、
 の衣にさうして衣にさう

●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう

●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう

●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう

一布

和名抄、ぬのとよあ、
 産幅の衣

●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう
 ●衣にさうして衣にさう

一 鷓

雉名物、ぬえとよめり、ことと庚
鷓こち或い、鷓也よめり、彩鷓子
洗こゆ又鷓ヲよめり、雉は子成るや、淡
禽經、鷓い、やち、そ、如、兒、呼、と、ゆ、ぬ、え
と、ぬ、え、と、ゆ、と、よ、め、り、鷓、う、ち、や、大、ま、う、
て、こ、う、く、さ、う、け、ち、さ、す、ま、ち、し、と、こ、う、貝、妻、の、い、
今、鬼、つ、い、こ、と、り、の、業、の、つ、い、こ、三、倍、ち、と、大、こ
し、け、け、け、と、こ、う、
● 近、所、の、成、生、う、頼、政
う、肺、さ、け、怪、奇、い、思、昔、う、頼、政、い、ひ、ぬ、ぬ、え
と、ゆ、ゆ、し、と、こ、ゆ、世、の、鷓、を、村、さ、や、ん、い、誤、
● 天、の、又、水、雉、ぬ、こ、は、板、あ、り、下、と、よ、め、美、は、て、後、板
さ、ぬ、い、と、世、の、ま、き、や、早、い、鷓、西、屋、の、鷓、
い、り

一 板麻

ぬえとよめりぬきあまの畧ぬ
万葉、幣、也、も、刈、せ、り、羽、に、ち、り
お、い、い、と、と、色、う、指、布、と、と、足、下、用
事、と、こ、こ、う、未、御、の、本、俣、麻、と、と、画、
呼、り、よ、い、ゆ、世、麻、と、と、ゆ、り、● 難、知、大、麻
ありと、板、花、と、稱、する、もの、を、い、は、す、西、土、は、麻、

とり、の、造、花、い、● 米、交、せ、て、投、げ、ぬ、ぬ、
と、こ、う、● 馬、ぬ、い、扇、と、稱、する、人の、汗、み、送、つ、も
ぬ、き、と、あり、幣、帛、の、本、意、い、ぬ、ぬ、さ、袋
ゆ、ぬ、い、もの、ぬ、き、袋、と、い、申、馬、木、の、板、本、俣
さ、り、け、又、あ、や、う、こ、の、色、の、ま、れ、り、と、と
入、り、首、さ、り、け、送、紐、法、を、祈、る、事、向、い、す、と、
と、こ、う、す、ま、い、る、袋、と、と、こ、う、拵、に、お、く
お、り、る、人の、汗、ぬ、き、を、指、の、袋、入、り、巻、え
と、い、ふ、● 今、死、た、る、白、布、の、袋、也、と、い、ふ、け
あ、り、の、俗、あ、り、き、も、ぬ、き、袋、の、進、意、と、と、
或、い、勝、米、黒、木、幣、帛、板、帛、と、い、ふ、
● 四、送、旅、立、神、廣、木、泥、子、宮、人、
宮、吉、石、葉、舟、心、舟、人、夕、占、
衣、三、宮、跡、祈、相、板、舟、板、
罌、吉、跡、花、旅、族

● 是、の、あ、り、し、聖、い、な、山、花、の、み、ゆ、ぬ、ぬ、
養、老、の、み、ち、牛、在、居、る、山、に、ゆ、り、る、は、よ、よ、
向、い、り、よ、い、ゆ、と、い、ふ、伊、賀、平、上、宮、の、山、葉、と、
● 此、も、ぬ、き、袋、の、ま、れ、り、と、い、ふ、舟、心、舟、人、
先、後

さいし月のおきして思ひすてようこさうりつ
とくへんり

△**赤名村人偷兒をぬす人**と云く盗人の名

●**せと盗人**牛交易の文に中とぬす人をよ
うこし

●**鈔もよあう**東坡の清く用た

扱無沙と云く沙略の名く周礼の注

鳥高喜沙盗二便行人 ● **松忍** いじし

いぬす人これとあひ口人るすとほあへ

とせされして不測に**禪指**老賊しつらぬ

● **人さのりり**大盗人といふ行取物指し

● **神**くくやふ俗指の哀妙集

一枚の差あす人處さう **神**ささの山のま

△ **白波** 津林の盜賊の名く津林若廣白波は
僕の子の海賊

一ぬばき皮

早記古事記にぬばき
そりま集にも二長ぬばき

と云くはぬばきもぬばきと云く天竺

多人の判例によつて付らむとあひ語く

とて中務まけぬ足いそ成と扱といぬばきと

いひ扱といぬばきと云くさされ成さき

より扱いぬばきと云くぬばきと云く
下

一ぬく

匠等もあう) 澤達いぬくさ
とて要東の書に云く) 四四のい

とて

△ **睡**とて(草)木の産を言ぬるはくははか為尹

一布子

ぬのことよあう) 冷舊も同
古く麻布を用又のことよあう

全冊兵制、緯襖と云く又布用る幸皮

先緯死を云くと云く) 澤花い木わい

とてぬばきのぬばきと云く) 緯はこ布を
とて

留

一 猫 瑠

ふりい碧色さふくふりい
まけ朝思ふとくくう 玉吟

山ささくちのち屋も麻いささく

△冬のもりあり大小二程し △もりれつ

後いしす ○いせの土宮もい毒い世に極究

こくふり ○ふり他のの華師絶 筆筆あはれ

ころ ○馬あふりれ思しをいあふりの童女

○ふり太素國にて合衆あり及五色つ玉を

大蔵の玉し 白ありと世に用ひあふり子

こ凡海うとあり透徹るやと一い不群あり

を世に結ありのいよものさすとすは若多抄

ふり 此言書色書一

○ふり休海林ありふりいり松の川

一 流 轉

此流しなをさていりく 定流
兼好兩集いりり

○ 遠 目 録

枕 未通目 遠近人 遠方人

固 固尼 固靈木 小手巻

小玉木 女 斧 女花 小忌衣

鴛鴦 庭梅 猪

○ 遠 の 郊

一 蛇

早蛇いさち又大地ともち
をい尾のなちい所後山さの

ちりちりしつるわしちの雷の女畏るるを
目撃せし蛇の比礼と云ふ復蛇と云ふ言へ
る所をちりちり小蛇と云ふと云ふ伊あやも
りといふ

○美村、油送、羨る泉、恒、雨、暈、
古福、作根、辰水、器、酒、魚、弓、
友、菖、雀、政、史記言征斬蛇也

▲送客屢聞外鶴消愁已辨酒中蛇
この壁へく、引れけ盃中こく、く、を蛇下
く、あや、く、く、く、(蒙求こアリ)

▲藤蔓曲為蛇、水尻委曲似驚蛇、
蛇首穿墻墮、
蛇首穿墻墮、
蛇首穿墻墮、

一、未通女、浪代地ととめと云ふ童女
小津女と云ふ小津女の傳り

助治し申とて小對へて云ひし
浪代子夫妻と云ふらつ夫と妻の女とい

卯舞し、○乙女あり俗舞し

○舞、琵琶、津和、神和、親、大階、
海松刈、以及、玉笑、口尻橋、海難、
桶花、破菜、海人、出下、虫野、
松浦山、神吉山、吉野、小忌衣

夫と云ふは、
裳、里髮、玉江、巨敷、子苗、笛、
麻子テ、泊瓶、雲、通路、雲上、豊明、
八六、布引海、与、代海、七夕、皇幸峰、
田、北浦、松浦川、赤川、新河、茅や、
根、生田川、

○
この羽衣の事、
夫、
二人を、
山の北、

一 園見

馬も降る云と降る年の吉ぶさずん

^馬ゆくも云元あきぬ人しほとあし年の年と云へと基俊

一 園霊木

古今集とせうい女のまじしとあ
世の吉介は文と丹波五ノ木
とらとら假名くうくう 奥木をいふとら 招魂の
る降しとら 怪也神言、宝物をとらとらとら
り及ら、日向の園小片、窟のあうまの物いと
ちのの本降し一、元と門松下、ちる木をいふ
とらとら 又鬼くち本とらとらとら

●五和ちの木の降しとらとらとらとらとら

一 小羊巻

きいま卯しよめう 麻深く多
うと麻の巻子、うとらとらとら
園に内虚るれい 隈み似らうとらとらとら
●このやうの巻のきい巻う外 巻をいふとらとら
屋のあうとら 多和の妾降しとらとらとらとらとら
肌いしとらとら

一 小玉木

松原しあぬ 松木をいふとらとら
又松のしとらとら 夫木松
松の郊に入らうとらとらとらとらとらとらとら

●谷ちとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

●これい松木をいふとらとら

●更い、いんさるまの東降しとらとらとらとらとら

●これい小松をいふとらとら

●夫とらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

一 女

彩せん字降し 娃又娘やもとらとらとら
よめう 又とらとらとらとらとらとらとら
麻績めの名降し 日本元、あともとらとらとら
とらとらとら 麻績の少女、いんさるとらとらとら
とらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

●麻績の少女、いんさるとらとらとらとらとらとらとらとら

一 斧

そのよきあやうともよあう
てそのいさき斧

● 尚解の斧とて車代敷きまよしい及ぬ磨き

● 谷、深山、山ろ、反造、佛達、蓬

● 山ろ、洋松、桂平山、杜若、宮造

● 斧の柄の木のちまきや杉の葉を染めぬ柄

● 斧の柄の木のちまきや杉の葉を染めぬ柄

● 斧の柄の木のちまきや杉の葉を染めぬ柄

● 斧の柄の木のちまきや杉の葉を染めぬ柄

● 斧の柄の木のちまきや杉の葉を染めぬ柄

● 斧の柄の木のちまきや杉の葉を染めぬ柄

一 女良花

そのよきあやうともよあう
てそのいさき斧

● 秋、鶯、云霧の、甲山、秋野、尺

● 妻乞鹿、虫身、依元、池、蓬、霜

● 秋田、落、桐、花ろこ、菱、夕霧

● 川

● 古

● 夫

● 花

● 花

● 花

● 花

● 花

● 花

一 小忌衣

いよのいよを男やせと衣と
いよあて、秋葉金大寶を

● 小母ともあり大忌、野

● 小忌の致母

● 大忌の致母

● 小忌の衣とよあて、秋葉の装束

● 秋葉川、冬、葉、如花山、秋葉

● 八乙女、かきの花、梅、元、月、雲井庭

● 夫

● 花

● 花

上柳
いさねいさな
いさねいさな
いさねいさな
いさねいさな

一 鴛鴦

水よりまきまきせりし鴨い
けりしきりしひるるに余互
毎下し

● 入口、竹、山川、谷川、洲、伝吉、
庵、岡、益田池、清所、棚の中、
高尾、三ヶ尾、池ね、五ヶ尾、五ヶ尾、
梢、さの池、芦、氷圍、庵、折尾、
生田の池、長、つらの村、山百、
氷根床、並池、戸巻、池、雑皮、
衣川、川舟、大井川、堀、早川、
杯尻、月氷、菅

夫つてまきまきしるあひさし花のさけあひさし
魂て立ち立りしあひさし花のさけあひさし
池にやの池ねさきさき妻事代月利りしは美

一 緒

意に之り 意に之り
面より尾、畜尻を刺せりされと名い同
池や池、論もよあり ● 羊れせりまきまき
のせりと緒の字用事なり結餘のま下

● 馬場やまきまきまきまきまきまきまき
あひさし合せきしあひさし合せきしあひさし

百
あひさしあひさしあひさしあひさしあひさし
あひさしあひさしあひさしあひさしあひさし

和目録

鷺 破子 口子 若和布 若紫
 別 我娃子 我立枷 津 倭 倭舟
 曲 和田系 倭津海 倭川 松 口子
 己れり 口子 煩 葉登 童
 瘧疾 突 王昭君 口子 口子の
 鷺 口子の 倭人 志和 志井
 忘水 忘子 忘貝 忘政元

和

一 鷺

形根字流、口子とよめつ四足怪
 龍の如し首大口闊一利齒又の
 如しよて俗、口子の口とよめつ三つあり云
 ●舟を口子とよめつ代に云く、口子に鷺、
 史玉版駕一陸の一集るると云

● 谷水、海、沖、作文、鬼、墨化

序子生、流代死を玉娘の産を、鷺と成陸

● 鷺の口子とよめつやままためすと云ふ事ろ
 鷺の口子とよめつは、鷺はたつた大鷺の口子

▲ 鷺追録走末隠伏日鷺伏
 一西の国といふ、口子とよめつは、燭明抄云く

▲ 鷺与虎闘両ナカラ死
 片は虎に、日本人虎と云ふ事ろ

一 破子

和名抄、口子とよめつ標子と
 と云く、口子の口子とよめつ標子と

● 奈津、品司ト云く、大破子、我妻難安

小、口子の着因集、世藏、口子の口子の申、口子の

写和、破子、口子、口子、口子

● 和名とよめつ、口子とよめつ、口子とよめつ

一 口子

口子、口子、口子、口子、口子

口代しやーとまう又こらうのし上畧を
肥後、厚武物、甲申地をりて五列の字と
訓せり

●^{後古} 口代しや人をも入るはうらまきやのうらま

一 若和布 万原、推海原をわめ上候

● 刺平、甫、岩戸水暖、渚、号、舟、管、
菅巻、旗、よき海

● 口代しやうらまきし本信の候か天の瑞立線
夫、ちのほはさやう世やうとてまの如し登り上
万原の巨原のうらまきし候し生る口代し

一 若紫 口代しやとらひ候きを若とよ

● 草、婿、衣、姊、妻、足御人、掬、尺、
筋、先、思、先、口代、ま、ま、地、友、
我、為、の

● 口代しやのうらまきしらぬまきとて友成候

● 口代しやのうらまきしらぬまきとて友成候

一 若葉 彩樹のし

● 葛、葉、野、雨、垂、山、谷、園、行、
月、仄、庭、朝、秀、昔、雨、媽、肉、
智、厥、号、烏、氷、

● 口代しやのうらまきしらぬまきとて友成候

一 別 口代しやとらひ候きを若とよ

● 滝、橋、む、少、神、又、の、床、豆、
庭、女、蓮、鏡、雲、豆、存、花、
出、下、若、出、相、改、名、の、名、月、玉、附

残る、人の心、反、命、目、雨、
池、秋、時のつ、老、旅、人、
釜、山、井、下、手、麻、板、あまの、
梯、梯、

● 只といふは、はなれと、病し、れ、て、別、れ、る、
物、の、あ、ら、ま、と、ま、は、あ、ら、ま、の、病、し、る、
心、の、あ、ら、ま、と、ま、は、あ、ら、ま、の、
心、の、あ、ら、ま、と、ま、は、あ、ら、ま、の、
心、の、あ、ら、ま、と、ま、は、あ、ら、ま、の、
心、の、あ、ら、ま、と、ま、は、あ、ら、ま、の、

● 君とつ別れ、は、は、は、と、三、三、三、
垂宮、群、り、天、子、と、つ、梯、を、と、
と、つ、降、つ、と、作、ら、と、よ、と、
と、つ、降、つ、と、作、ら、と、よ、と、

● 行、人、は、母、の、心、の、梯、か、
と、つ、降、つ、と、作、ら、と、よ、と、
と、つ、降、つ、と、作、ら、と、よ、と、

一 吾背子

ワセとしよう、ワセとしよう、
わ、ら、つ、同、く、は、ら、せ、の、思、も、
り、つ、吾、夫、子、も、あ、り、古、く、人、を、さ、
可、原、ふ、い、男、と、も、互、に、ワ、セ、と、は、
母、と、り、ワ、セ、と、衣、と、る、雨、と、あ、
り、と、り、と、り、

● 口、せ、と、衣、生、前、言、と、い、の、涙、の、
口、せ、と、衣、生、前、言、と、い、の、涙、の、

一 我立札

● 多、く、母、の、心、を、わ、か、し、
多、く、母、の、心、を、わ、か、し、

一 綿

● 綿、の、心、を、わ、か、し、
綿、の、心、を、わ、か、し、

浴するをさし ●日く花馬あし争綿花し
踏方の時わきのあやついでて造るをさし
一のついでて

●ついでて 浴衣は造り志をよめり死志の
にこれに沐浴してほりさめりて用むとらり

●先、嬰兒、床、病、酒、雪、扱、扱、衣
秋、唐、人、皇、雪、帛、親、笠、筆、月、
番、走、弓、の、花、佛、名、花、花、妹、衣、
兼

●秋のついでての一言はひとをたし内いこゝ入象
、取もやちたはあぬふ人の桂すりては様は
、すむ後へのついでてはひとをたし内いこゝ入象
取つて七月十日に内裏へ入つてついでて

●この年の及ばぬをさし、
は及ばぬのめいし、
まゝと又こゝろをさし

●このついでてのついでて
、
、
、

●このついでてのついでて
、
、
、

一渡

ワケノ海をよめり候え如し、
まゝと又こゝろをさし

●横巻、虹、稲妻、雲、花、月、
月、川、橋、橋、雁、橋、渡、七、天、川、鶴、橋、市、入、泉、川、早、川、

淀、杜、若、花、秀、幣、田、時、雨、
谷、上、桂、川、馬、角、田、川、夕、秀、
ま、の、沖、云、霧、の、月、川、こ、の、心、踏、

大、井、川、降、雪、雨、雪、五、夜、海、
葛、弓、石、香、羽、矢、つ、せ、笠、さ、り、又、
武、庫、橋、小、舟、志、守、の、大、和、田、

●昔よりこのついでてのついでて
万、務、の、つ、い、は、り、天、川、中、の、人、踏、

●昔よりこのついでてのついでて
万、務、の、つ、い、は、り、天、川、中、の、人、踏、

天の川を渡る舟の舟人
舟の舟人
舟の舟人

一 渡舟

舟の舟人
舟の舟人
舟の舟人

● 樵夫、茶刈、市人、旅人、山幸、九月兩
里、皇川、角田川、辰、夕、天江
早番、留、早川、舟、阿波渡川

● 在りては、舟の舟人、舟の舟人、舟の舟人
舟の舟人、舟の舟人、舟の舟人

一 曲

舟の舟人
舟の舟人
舟の舟人

● 舟の舟人、舟の舟人、舟の舟人
舟の舟人、舟の舟人、舟の舟人

一 和田系

海神の舟
舟の舟人
舟の舟人

● 舟の舟人、舟の舟人、舟の舟人
舟の舟人、舟の舟人、舟の舟人

一 渡り川

三途川
舟の舟人
舟の舟人

● 舟の舟人、舟の舟人、舟の舟人
舟の舟人、舟の舟人、舟の舟人

一私

わたくしとよからう、わたくし申の言、
自稱ふい、私に某ことと云ふ

凡新らわたくしとよからう、唐木場、
り世をすまやと云ふ、
天正

一と汁て

服えその言、
返え、
返え、
返え、

又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、

一われろ

我ぬの、
大い、
いせ、
れぬ、

又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、

一地榆

わたくし、
とよからう、
地榆、

又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、

一煩

わたくし、
とよからう、
煩、

又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、

一菓屋

わたくし、
とよからう、
菓屋、

又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、

又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、
又のわれ、

一・童

早花、少児又年少をわかると
よあり。●自稱、この早花の辞
を多の言ひ。●わかるともよあり。倭名抄、
童男をわかづく女をわかづく。●
●馬をわかづくといふのわざけとて、子飼
●ふくわかづく人の子息をいふ。●小舎(童
の書、わかづく馬をいふ。●わかづくのわかづく大
役とらふ。●大役あるをいふ。●や、倭馬
●あり。●さいらんともこれ、倭馬(童)あり。
わかづくともいふ。●わかづくわかづく人
童。

●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花
山伏、わかづくともいふ。●わかづく
●わかづく、わかづく、童女(童)ともいふ。

一・瘧疾

わかづくともいふ。●わかづく

北山、恒月元、弓、馬、海山、倭
所、行、市、詩。

一・笑

わかづくともいふ。●わかづく
とよあり。●わかづくともいふ。

●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花
●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花
●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花
●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花

一・王昭君

●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花
●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花
●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花
●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花

一・つら

●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花
●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花
●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花
●^{早花}又老、この早花の辞、わかづく早花

一忘霜

虫の毒いすききし 霜の分三月
中迄の日記をきし 虫の毒の限は
一百廿枚の表として 霜の限は
五枚の表として 日記也

一忘井

忘れし井は 忘れし井をいふ如く
あり 毎日の甲斐よりいふ甲斐

一志那市場といふ所の名の田あり

といふ所の田の田名は 忘れし井

忘れし井といふ所の田名は 忘れし井

忘れし井といふ所の田名は 忘れし井

忘れし井といふ所の田名は 忘れし井

一忘水

山崎本伝より人子とて忘れし水
忘れし水といふ所の田名は 忘れし水

忘れし水といふ所の田名は 忘れし水

忘れし水といふ所の田名は 忘れし水

一忘草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

忘れし草といふ所の田名は 忘れし草

●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか

一 志貝

●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか

●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか

●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか

一 志形見

●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか

●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか

●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか
●^名のついでに人々をいかにしるべきか

笑目ろく

笑 望火 恒尺 擢 海津 抄 河
川 上 川 流 川 崎 川 副 川 社 尾
橋 橋 榑 榑 か 池 付 蟹 魚 (ろく)
望 望 向 机 撥 暮 賽 還 ありし
不 帰 道 小 帰 水 門 首 途 楨
穀 一 厂 隼 雁 将 将 獵 虫 秋 将
指 使 かり 祢 化 城 假 松 伎 安
煎 色 流 かり 祢 流 字 安 字
舟 火 通 路 厚 刀 秋 尺 答 費
致 語 帷 子 肩 衣 片 設 方 夷
蝸 牛 父 母 桂 蔓 鬘 久 々
松 実 金 滝 滝 滝 鼎 悲 哀 唐
唐 人 詩 烏 射 丁 辛 鉦 香
合 歡 彼 岑 伎 四 采 計 神 乐
隱 家 かく の せ を 萱 鷄 蒲 釜

竜 雞 かけ 不 び 路 寛 棧 かけ
禿 水 手 ぶ かり こと ころ 相
羅 笠 飴 衫 袴 頭 鶴 杖
恒 羅 杜 荑 徒 花 押 亀 瓶
神 神 風 神 代 神 恒 上 久 雷 十 月
酒 園 神 風 髪 白 髪 法 上 下 程
拍 拍 手 鉦 標 鷲 傳 賢 貴
嘉 定 頭 雪 霜 峽 貝 髭 飼 蚕
鴨 鷗 羆 羊 公 背 奈 臨 海 奈 風 薫
鹿 震 掠 春 日 奈
一 則 表 兼 言 巫 柑 子

加

一賀

年 賀 し と け の 笑 を ころ
情 陰 目 死 と ころ と ころ の 精 進

あつたやうにあり。●唐武に在りしものありと
 一の目るといふも。精進落の日記より。あつたや
 匠ことり。いふ年。●九宮の四十を先ノ始
 とすれ。四十より五十六と教つて慶壽の礼
 を行へ。花、笑、紅葉、友花、友、紅梅、友
 雪、笑、るるといふ。●生日を笑、ちりくと
 天壽節と云ふ事。先仁天皇、勅、十月十三日
 是暎、半日、仍名、此日、为天長節。と。類聚國史
 云々。唐玄宗の生日、子秋節といふ。●唐武に
 在り。

- 月、雪、紅梅、宮殿、慶丹、酒、雁、
- 行華、秋、慶、人、舞、紅葉、
- 小松川、口、川、ゆき日、琴、琵琶、
- 笛、橋、花、

●あつたやうに舞つてあつたやうに舞つたや
 といふ事。笑、ちりくといふ。●太り
 天皇、上、笑、ちりくといふ。●太り
 つは、木、海、川、い、行、華、あ、唐、武、臣、上、書、出、

●二月三日に行れ。と。友、路、友、の、昔、方、出、笑、

●あつたやうに舞つてあつたやうに舞つたや
 といふ事。笑、ちりくといふ。●太り
 天皇、上、笑、ちりくといふ。●太り
 つは、木、海、川、い、行、華、あ、唐、武、臣、上、書、出、

●あつたやうに舞つてあつたやうに舞つたや
 といふ事。笑、ちりくといふ。●太り
 天皇、上、笑、ちりくといふ。●太り
 つは、木、海、川、い、行、華、あ、唐、武、臣、上、書、出、

一、蚊

あつたやうに舞つてあつたやうに舞つたや
 といふ事。笑、ちりくといふ。●太り
 天皇、上、笑、ちりくといふ。●太り
 つは、木、海、川、い、行、華、あ、唐、武、臣、上、書、出、

- 白、扇、暑、折、竹、冬、立、雨、折、雪、
- 紅葉、秋、慶、人、舞、紅葉、
- 小松川、口、川、ゆき日、琴、琵琶、
- 笛、橋、花、

小家、燧石、伎登、雨さ軒、管、夕鳥

一 蚊遣火

板也追考火し。蚊遣火なり
蚊遣火うつりし。

● 美の店、巾の物、薪ろれ、十市、杜、
山本里、管、燧石、夕鳥、旅ね、月、
向の里、小山田、葉夜菴、巨下の里、
管管、荒吳、小野、雜波、下大、
村、夕立、油邊、

○ 万重向の村の、大子旦のよとてりきや、燧石
夫、燧石の多ういせき燧石をすくわぬ、
三浦、
三浦、
三浦、

一 垣間見

と名をわたり、か目事、視私
屏せういせきし、刻せう、松双成

○ 辰中川の中へ、老翁、少思の車、
まのいり、まのいり、まのいり、
まのいり、まのいり、まのいり、

あるやういせき、燧石、又、燧石の、
燧石、燧石、燧石、燧石、
燧石、燧石、燧石、燧石、

● 中川中、其、北山、生先、人、灯

夕鳥のや、旦の物、
るまのり、
九九、
九九、

○ 燧石の、
燧石の、
燧石の、
燧石の、

一 權

和名抄、
希、
希、

○ 燧石、
燧石、
燧石、
燧石、

一 海津物

馬の歯まきとあまのりて
海つおとせ年ねりしりて
巻こええて巨の虫を拾とまうと玩あれと只
海にあらまら物とくくくく。又或玩と海やこ
くひつおとせと海津物こととて

一 河

川しらとよあつい変りの女遊水
、豆扱よとよあつい河津の
くつららとよあつい。日称川喜川流川
と三太川と牛橋、改東太亭、四圍、下、荒
後三橋とつら、吉野川、河津、小嶋、尾、是、
●川原、日車、飛、河、弟、又、河、辺、ト、あ、り、又、川、上
せしよあつい。●川、あ、り、日、車、花、と、持、体、を、よ、こ
聖、天、花、と、深、浴、を、あ、り、於、是、河、を、女、川、水
あ、り、さ、ら、れ、と、こ、ろ。●川、が、さ、ら、水、練、り、さ、ら、せ、
さ、ら、り、川、が、さ、ら、の、女、山、さ、ら、と、い、ふ、同、一。●川、が、
流、代、に、川、原、と、い、ふ、只、一、を、い、ふ、さ、ら、川、橋、
は、は、世、の、同、さ、ら、川、原、さ、ら、り、可、也。

●舟、板、細、代、性、管、管、管、管、管、
三、康、舟、屋、舟、舟、舟、舟、埋、木、柵、
竹、橋、入、江、原、蕨、蕨、蕨、
稻、舟、淺、谷、堰、井、杭、魚、
田、水、車、子、さ、り、根、根、福、葉、田、
釜、釜、釜、釜、釜、釜、釜、釜、
鮎、鳩、舞、火、田、巻、堤、背、筋、
ま、れ、水、岩、浪、茅、柵、梁、

●遠、近、の、黄、水、を、た、り、て、さ、ら、り、川、の、事、を、つ、ら、
山、さ、ら、り、河、つ、ま、川、を、た、り、て、さ、ら、り、河、を、た、り、
さ、ら、り、河、つ、ま、川、を、た、り、て、さ、ら、り、河、を、た、り、
さ、ら、り、河、つ、ま、川、を、た、り、て、さ、ら、り、河、を、た、り、
さ、ら、り、河、つ、ま、川、を、た、り、て、さ、ら、り、河、を、た、り、
さ、ら、り、河、つ、ま、川、を、た、り、て、さ、ら、り、河、を、た、り、
さ、ら、り、河、つ、ま、川、を、た、り、て、さ、ら、り、河、を、た、り、
さ、ら、り、河、つ、ま、川、を、た、り、て、さ、ら、り、河、を、た、り、
さ、ら、り、河、つ、ま、川、を、た、り、て、さ、ら、り、河、を、た、り、
さ、ら、り、河、つ、ま、川、を、た、り、て、さ、ら、り、河、を、た、り、

一 川上

川上の沖とらま船のたをさる

夫 六月廿七日 神代文書 西宮氏所傳

一 蛙

一 尾

つらとよめつに皮り多しや
神代文書の尾とよめつに尾との

尾尾て管管とて神代文書の古事
●天工用ね、流瀉尾あり、宮内宮及管
とてつらとよめつとて云云尾と云云尾とて
しつらとよめつに尾とよめつに尾とて
手取物造、つらとよめつとてつらとよめつとて
●山寺、花、堂、軒、苔、山陰、松、
志、笑、早、管、雲、雀、外、浦、再、松、

●夫、つらとよめつに尾とよめつに尾とて
とてつらとよめつに尾とよめつに尾とて

一 蝙蝠

埃塵抄、つらとよめつに尾とよめつに尾とて
とてつらとよめつに尾とよめつに尾とて

●蚊、古、天、門、赤、雨、夜、香、野、路、浦、
吉、寺、夕、号、行、前、

夫、つらとよめつに尾とよめつに尾とて
●目、若、れ、つらとよめつに尾とよめつに尾とて
千、歳、前、化、白、編、幅

一 榊

かむあつ、和名抄、榊とて
とてつらとよめつに尾とよめつに尾とて

玉、希、榊、木、の、皮、の、名、と、云、云、原、も、榊、皮、と
かむあつ、和名抄、榊とて
●今、か、榊、と、云、云、花、の、名、を、茶、色、と、云、云、榊、と
英、榊、と、云、云、或、大、榊、の、名、と、云、云、樹、は、以、て
英、は、つ、ら、と、よ、め、つ、に、尾、と、よ、め、つ、に、尾、と、て

櫛の味もこれらとらん化すしつらふの
列種也●櫛虫死つては櫛二重櫛こ或い
一重櫛の死つてゐるともいふ●古
羊雅抄に櫛の色をえ表するに裏色色
とかい櫛とつとつ櫛の皮の色をえまや
●今の櫛を巻くところは太洋式に櫛刀櫛皮柄
とつとも是もや●貝系木の沓かむい甲州
牙一皮い雨中栞よる一又川うると
用て明一五雜俎に櫛皮易燃而免烟云

●櫛の屑を白く櫛を洗つたものと櫛を洗
●古國字をかく櫛をかく出づる外は吹
●あまのまをくめ櫛をかくるとは
●古の櫛は巻くついで
●櫛の屑を白く櫛を洗つたものと櫛を洗

一かいれ時

修業難時の名も
晩過つて人の色見か
時をいふ時一とされ時といふ詞

●ふれ星明星より先(古)星に耀後星
とあり大後(古)

●列路、星、彗、夕、夕、月、

●里をくけの事すくられ時と後入へ

一蟹

●古の皮丹の多(古)一蟹
●古の皮丹の多(古)一蟹

●古の皮丹の多(古)一蟹

●古の皮丹の多(古)一蟹

●田中、竹、石、若、其、間、吾、刈、田

病、雞波、酒、杯、絳

夫 携るる若くはのまのたれは鹿をけやまてて思
、若葉の刈果の面との帯に筋のき管も若葉の

△吾輩卓常謂人曰左手指管管 右手指
酒盃拍浮酒船中使足玉一生笑

一、白鳥

早能、顔面又容態を存と
よゆう 形秀のあはれやうほ
とろとつりつね色をよの美しきをせし
ひさしやなをよとつともよあう 管 雞又管
或やとろとつりつねを大いひ品出のそ
うろくをよとつりつねをよまゆ

●虫野、梅、杜若、桜、山、吉川、
吉川、井杭

●^万世のこころはよの携るる本は候これのちの 異
^{千五}世のこころはよの携るる本は候これのちの 異
吉川の井杭のこのあまをよとつりつねをよまゆ

一、壁

馬をよとつりつねをよまゆ

●学文、絳、障、菴、忘月、雨、
螢、灯、五、月、夏、生、子、琴、
桐子

●^千五のやうに残るる意をものこひはけは候
几座のせいひあつたゆの雨のしよとて手は巻りし
中とてまぬふしをよとつりつねをよまゆ
何とてまぬふしをよとつりつねをよまゆ
△甘解生、葛西石、桐上、壁、百、塔

一、壁、向

釈教、連、九、年、画、壁、十

●古、室、律、灯、悟、佛、法、師、行、
勤、菴、善、師、絳、秋、詩

一、楓

之で和名抄よの雞冠木かへで
の木雞頸梅かひかひの木よ
とて一木の名とてとて

夫 **●** 申すは先をくきねてあやせ何事心は美
 百 **●** 只れ書き記す事なきものもあらずも思ふ下りり
 夫 **●** ちをきし極く極中交して感くもちを極
 亦 **●** 其後を申の女の只れ故のちよはあぬわら日

一 蝦蟇

くさしよあつゝ退くは草とくさも
 又申れに氣をくさくさるるれい文
 とい 申保子院といひよといひ
 和蘭語よまへはうまをくさく **●** 匠馬車に力る
 くらして申 **●** くのの子餅事
● ともくさくは馬車はのりもくさくは馬車はのり
● 足りのしるは馬車はのりもくさくは馬車はのり

一 くらまじ

法の擲のやせにくまは暫く今一階は仰あつゝや
 簾とよあつゝ厚くく申報
 茶のぬじ **●** 復奏をくさく申
 といひよは馬車はのりもくさくは馬車はのり
● 復奏をくさく申

一 くらまじ

豊饗の女婿弓と血書
 大納言領みてるは
 くらまじをくさくは馬車はのりもくさくは馬車はのり

一 くらまじ

過る月日、云々の駒、出秋のくさく、
 くらまじ、おき、老、辰水

一 くらまじ

辰水不返は悔不承と云
 浩あり死せり人を辰水
 くらまじ

一 門

かきりあ金のたのあつゝ門は
 くらまじ、おき、老、辰水

●友、竹、稻葉、麥、丁、与、板、并、
桐、立、赤、時、人、竹、人、送、人、
時、友、朝、清、光、本、原、到、ろ、
車、姊、柿、蓮、刈、田、華、鶴、
駒、雉、雉、松、法、杖、水、雞、
尾、山、松、

●活字に對するの規則に事法を述べたが、
これに於て、律、平、多、較、恒、以、序、為、門、然、凡、外
多、長、志、車、輟、三、

夫、同、五、を、所、を、一、也、と、説、き、る、人、馬、
三、等、あり、り、人、も、一、年、を、一、日、と、言、ふ、事、也、

一首途

●と、門、か、多、し、旅、か、立、り、
要、送、馬、の、れ、お、け、り、と、同、意、

●秣、相、駒、詩、歌、酒、衣、麻、板、
明、夏、戸、一、殿、世、野、言、船、友、つ、り、
言、也、行、秋、各、言、

●天、の、み、た、る、も、あ、ら、は、な、く、生、黄、姓、か、を、か、紅、
ハ、尾、圍、と、今、の、言、を、し、り、ゆ、り、の、口、す、ま、も、唐、
若、火、く、山、の、極、世、ま、あ、ら、れ、か、つ、あ、こ、う、後、
今、の、世、と、い、ふ、林、の、つ、り、れ、烟、と、京、と、ま、を、此、う、良、

一檝

●今、日、事、記、を、扱、よ、あ、つ、回、事、
記、を、よ、め、り、一、万、の、あ、い、と、は、概、

とも、こ、う、

●凡、く、多、や、少、の、や、う、も、所、を、以、て、其、を、寫、す、中、の、在、舟、邊、
●今、の、好、ま、な、き、風、を、あ、ら、り、と、い、ふ、眼、に、映、り、
●梅、の、長、き、柄、の、ま、や、う、と、い、ふ、ら、し、い、し、
●玉、の、こ、の、こ、の、あ、ら、は、な、く、と、い、ふ、舟、に、
●梅、松、一、枝、を、言、ふ、在、舟、も、あ、ら、は、な、く、と、い、ふ、ら、し、い、し、

一穀

●今、日、事、記、を、扱、よ、あ、つ、又、措、し、
●古、語、に、津、味、見、邪、

●穀、木、能、殖、を、以、作、白、和、帶、と、い、ふ、
●あ、ら、は、な、く、と、い、ふ、
●あ、ら、は、な、く、と、い、ふ、
●あ、ら、は、な、く、と、い、ふ、

神世、穀をとりし木綿を造り天ノ桐樹根取
し神衣感とめさせられし事、旧事記に云く
織女の子事をとりしは市の織を用人と

● わかしの衣を妻に下りてとせし世とて、又かきとる事あり
神代巻、母の事あり
● あつらひの七の事ありて、今もききかたれ 輪

一将ノ使

あり、法因(将)とせし、是なる
弗使をきく事あり

● 興行(将)の使の送途に陽田野と略の事あり
しとの略の子を西へて楳木とせし、使の事と法
ありて、中法にて切廻りて折とせし、津布(海軍)
とせし、折折を能くし、折をせし、陽田野の
折をせし、知とあり、建武年中あり、是事あり
折とあり、是の事、短事あり、めまれ、使の使
とせし、使とせし

● 君とせし、われりえやは、八の事あり、是事あり
この事、平将の使とあり、是の時の事あり、
一歩達とあり、この時の事あり

一わらわし

竹笠の刈り、法とせし、の事
とせし

● 信濃の事あり、是の事あり、
出づり、是事あり

一化城

● カリノコヤコ
釈教に化城と曰、以方便力、於險處
中、過三百由旬、化城一城とせし

● 難波、志賀、吉地とせし、旧海とせし、是事あり
海津、付する事あり

● 空の月、此世の事、是の事あり、難、迎、佛
極楽を我、ゆき、惜、是の事あり

一假松

● 藤物と同一、只仮物とせし、
野山松陰とせし、是の事あり

● さいころ、是松、是の松、松の事あり
● 松の下陰、花の陰、旅の中とせし、是事あり

神中
八重子洗の影さうしよ中
とい五照思ふこと

夫 照守れども所ありて風靡くきよきまをなむ
山を以て尾の洗白なす子とていぬ人とて
馬ののまきうる事放のまをわさの洗さる
香をたしうるまをけぬも子
洗とこそを重邦とく
可き羽の身は洗は

こ三神ののこ言歌一曲掩照洗照サ美ら白頭

一 洗の影さうしよ中

○ 夫人のよ 別れ人 左汗 華の末
但後安 日の布 花をうらる水
池の萍 池の水さの 水子

一 鏡子

日事飛と白歎とめいし訓
和名抄 白歎をやまめきと
ふんれ 後於連集の人のまのり たら子朝思と
のこ字をし合せりうらまのし手拂えれし
四のいけりけり朝思と洗子うらまを
とし夢科よけれ思まをりし

○ 後面字をいこふいこふとく又為三集に育
下大内あり無のこ三太んをいり後秋の
莫伊集いこくく又山吹 橙とて其後
争るく 浮草とて 是伊集とてい太ん
夏い事橘花杖の橙 冬い杖とていこく
を海いこくこいひうらまにぬきとて石子這
まるとい

大いこくこく生る洗子うらまは月が氣かたてゑる京
あま 照守ははははは 洗子 由の流の水の花の名
この洋の只女

洗とて洗子とて 洗子 早れ衣のさうるる
この山吹 是名よあせり 又西丹まといこく
はははは中あははは洗さかては烟を伝へり
この元日解るこまの太根

是年
あまの神とては洗子第一果あつたを洗
はははは水あははは洗いこくは洗のいこく
この事橘花をよめり

物言ひに言ひ洗子とてあつた神をたれと
はははははははは洗子とて洗さかては
この杖とていこく

一葉山子

傳説にゆかりし席に
加し藤十山子をまつと

りし是し●三原信都佐中園陽川とつふ
如の山子を知りし時徳をくし輝し
法師のてくしや彼不の去氏すもよせ
路ひし花い山田をもちし三河精川運ひ
て退し路あし折も退ぬれい至の用事も
ありつるまじや

●山田信都のむね川れ北果ねれとて
とよまれし夫今田人の形像して席を
為信都と名つりしとや

一篝火

かり火とい篝とてけし火を燒ぞ
よ只ろくるとのまじり

●京の篝といふに東經に爲洛中營衛出
止不懸篝之由被定とて篝松篝兵
とてし事しるる豫金のやう事起て

早八箇如の篝をと太至化とて篝の雑色と
いふの篝を及上長句吹舟とてくり●あまの
漢稱よあり

- 羽殿、神玉、赤穂守、車、巻、星、
- 船舟、大南、格舟、小釜山、玉川、
- 鮎、細代、足、沼、萩、舟、
- 屋、山、巻、水、庭、洞川、

●夫 表に世にいふ海客の及子とて仲の篝は
大南を以格舟とてか正火を以格舟と
篝は子正信の煙をよまはせぬは
いあるは信かたの便は信は
この篝火の巻をまつりしは信は
こえ路ふとちりあまのまも
あやふまにあまのまも
り衣もこえまのまも
信はちりまのまも
たり衣もこえまのまも
信はちりまのまも
たり衣もこえまのまも

一刀

刀、刀といふは又の名とも、刀、
刀通せり。或偏難の名とも、
刀に對せる名も、或後志の佩刀として、
大刀、短刀といふも、刀も是後、
古傳の刀、遠くは大刀とて、近くは刀斗
といふも、さう。

何事と云ふも、其刀の長短、其刀の
柄、其刀の鞘、其刀の銘、其刀の
といつても、其刀の柄、其刀の鞘、
其刀の銘、其刀の鞘、其刀の銘、
其刀の柄、其刀の鞘、其刀の銘、

一形見

大、大い、大い、大い、大い、大い、
遊、遊、遊、遊、遊、遊、遊、遊、
遊、遊、遊、遊、遊、遊、遊、遊、

雨、雪、（古事）、神女、文、写、信、衣、

扇、梅、花、萩、布、扇、梅、葉、

涙、玉、玉、葉、人、身、衣、の、移、り、も、

秋、筆、の、心、葉、柄、花、葉、花、葉、

赤、松、山、（古事）、三、津、松、

三、松、折、之、葉、明、堂、見、志、の、心、

浦、殊、々、又、山、合、歡、水、

古、梅、花、の、心、葉、柄、花、葉、
古、梅、花、の、心、葉、柄、花、葉、
古、梅、花、の、心、葉、柄、花、葉、
古、梅、花、の、心、葉、柄、花、葉、

一、空、賞、（カタ）、
空、賞、（カタ）、
空、賞、（カタ）、
空、賞、（カタ）、

花、葉、破、れ、水、口、肌、芥、

破、れ、の、心、葉、柄、花、葉、

主 葛橋指すを入りのふと人のこころをよめる事
葛橋の形をいふと後に入るとは葛橋の事
るをうあや形をいふと後に入るとは葛橋の事

一五

カク、
こころの偏りの事

葛橋指すを入りのふと人のこころをよめる事
葛橋の形をいふと後に入るとは葛橋の事

一語

カク、
日華記述をいふとよめる事
合あり、己あつたからあつた

語多あり

● 赤い年、眼痛ぬ、老の友、灯の中、
雨状、 早走、埋火の中

一帷子

カク、
帷子の事、帷子の字をよめる事、古集、
帷子の事、帷子の字をよめる事、古集、
帷子の事、帷子の字をよめる事、古集、

香壺の事、帷子の事、帷子の字をよめる事、古集、
帷子の事、帷子の字をよめる事、古集、
帷子の事、帷子の字をよめる事、古集、

一肩衣

カク、
万葉記、布衣、肩衣、
内行の、薄氣殿、令禰の
肩衣、小袴、をよめる事

一片設

カク、
万葉記、片設、
万葉記、片設、
万葉記、片設、

一方凌

カク、
万葉記、一方凌、
万葉記、一方凌、
万葉記、一方凌、

天二物とさけしもの
●百沸物と保元二
年上其方金津方違自今以後不可忘
輝之由金津方有くとくころ●北山抄の方
のまゝもともさうは方ともさう

●中山肴、米水、巻、竹尻、軒高萩、
其、好介、忍安、三度、山里、
内海、黒比、屯迫、隣、占、酒、
おま、二夜板り、

●逢方さうて君いよあひのまふまふ
令 君さうて逢方の津はあまのちまふ
夫 ちまふの津はあまのちまふさうて
●屏花、まゝ舟、船の波、也、酒、酒、酒、
狐のころり、

一 蝸牛

●雨申、桐子、恒、竹、養子、子亀、
至事世、庭、牛子、雞皮、味

梁、琴、文字、石火

▲蜘蛛、淡、硯、碓、梁、田、城、蝸、成、字、
蝸牛角上、事、何、事、石、火、先、申、号、城、牙

一 父母

古語(さる)母よりまれのさ母のな成(一)実
母さうさう

一 柱

●柱、松、尾、ま、あ、い、ま、う、ま、あ、く、松、尾、え
あり●松、尾、ま、あ、い、ま、う、ま、あ、く、松、尾、え
あり●松、尾、ま、あ、い、ま、う、ま、あ、く、松、尾、え
あり●松、尾、ま、あ、い、ま、う、ま、あ、く、松、尾、え

月よれ社も延由し ●あつてとよあり
玉着玉髪とい列し

●あつてとよあり

かき明細いたつてきよりの一語のしよ

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●大井川、信、入江、月部、坂、庭、

立花、弥山、葵、川副、山、山人、

都、おれ、星、

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

一、蔓

かつとよありの蔓、同、草

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

一、髪

かつとよありの髪、同、髪

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

●あつてとよあり

どろ毒魚ありとくさるる ●東魯宮隠曰
旺平侍丹聖毒味珍肉肥色赤而鮮明
如松所故為松實生東北海上申あれい
食せし可なりトシ

水は南のう子つるつる朝のうて 巻
泉は湯と松葉舟並ひつるうははははははは

一金

ふとふの世縛の女ことごとく
金の金の想名く車困さしき

つとふの世令く点師まてい張し ●金鹿の
令い吉の金峯山い花巨権尻の令を羽の結し山
足汗勤おせの時三會元後の道に地令石封し
しくいいぬとらり 夫木草と仲しうあや

海真

佛、山吹、兼、細倉、

夫こそは海真の心とらぬの令もよめまよまよ
と世世の世まよまよ海真の心とらぬの令もよめまよ
と世世の世まよまよ海真の心とらぬの令もよめまよ
と世世の世まよまよ海真の心とらぬの令もよめまよ

一鐘

よしよあつた言の多儀し
よしよの言の多儀し

とれと彩換古今集、雅世のあまこよあり
●つと朝つらし許せとまらし高の所記りて
つ朝まとも春他天皇の由時、元海下は軍の
時つとくさる ●つと元明天皇の由時、我朝の
海しとくさる 皇の朝まともしつとくさる
とてつとくさる

豊音

老矣、唐尼、空后、明徳、相波

思音、警観、虫杯、苦、入口、参り
言妙、尾上、霜敷、地蔵、峯、麻
老松、大津、我立松、難波、平松
古々、芋松、光山、良光、聖老山
木宗、辰尾山、雪、泊せ山、笠麻山
野ち、与行、俄鼓、信香、林、保

泊舟 ● 夜半逢兵到客船

子言初の岸にのりて 晩舟に逢やあはれ 匡房
山海経 豊山のより 吾津而自留とよまはれり
万の人の船をのりて 舟をたもて 舟に逢はば
三更のこゝろに 到り

● 舟中 舟の浦に 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば

一晩鐘

いづちの日の入間 日没を
いづちの日の入間 日没を

● 旅 金を求め 舟樵夫 舟樵夫 舟樵夫
舟樵夫 舟樵夫 舟樵夫 舟樵夫

鳥 山川 舟人 野寺 舟人 舟人
舟人 舟人 舟人 舟人 舟人

夫 舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば

● 長平池 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば

一鳥

舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば

● 舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば

一悲哀

舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば

● 舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば
舟に逢はば 舟に逢はば 舟に逢はば

別、白髪、老、夢、旅、秋月、麻
子、あくまのあつらひの昔を木のこゝろにといひ
草の青きこの秋にくさめすかの調子も
月をいあくまのあつらひの昔を木のこゝろにといひ

一唐

○衣、もろもろ
○衣、綿、挑、梅、衣、船、猶、泊、

一唐人

漢人をもつてよめり

一唐歌

○大京、月、花、花、梅、舟、酒、琴、
展、雪、歌、長、

一鳥

○神社、山、市、堤、薩、稻、杜、
鳥居、林、雪、梅、月、琴、和、歌、
歌、鳥、山、井、川、井、田、橋、あつら、
文字、扇、口、

夫、鳥居の所を筆ていふは杜とあるけしう、陸房
の書に、山鳥の羽を、杜の枝に、雪を、和歌、
の、鳥居、山、井、川、井、田、橋、あつら、
八咫鳥、大羽鳥の、使、

鳥居、山、井、川、井、田、橋、あつら、
鳥居、山、井、川、井、田、橋、あつら、
鳥居、山、井、川、井、田、橋、あつら、
鳥居、山、井、川、井、田、橋、あつら、

けのほろろや 刻の年を平し ●か(ん) 馨
せよめうがく(り)のほろこ

●若きもの衣、霞衣、几帳中、内裏

行ひ、七夕祭、佛茶、亡魂返れ、何人

夏、あやの夜 梅、花、兼

鳩、あまのこ 星合、誦陀、雀、花雨

笑、笛、佛名、羊歩、髪洗、粧

夫洗妝屋の室子をまれば烟やきと降るん 仲三

、焼つくまの烟は晴らう美事うらみ 源一 毛皮

のひらきう洗ひ地紙 十まきまきう衣さきうし松

乃海、し中

△道士扱涌菜珠陀、白崖下、遠香烟融

老去同第唯夜雨、焚香卧地畫多矣

沉香火庭坐吹笛

一合歡 花い返しほろよあう

田舎、軒、垣、庭、門、外酒、吉持子

形見、大内山、真山、深山、月

帰るよめとまき吉へ形見のあが花返らう 兼

、世はぬたのいふまはたうらめ花をさう 伝真

、山さうらまうねやとまきてあふ木五人まき 光俊

夫 物さの長きまきうらめあふ深花返らう 兼

一彼岸 秋は水辺、水

●尾、借、涯、誓舟、佛唱、海舟

さみ舟、川、柳、竹、三笠、花江

菴田川、法行、長川、卷舟

入日、暮草

夫 彼岸はさし海を海舟をたてて花をたて川系

、あふ舟よふはし誓舟の舟はさきうらめ 兼

、こいゆめの尾思のうらめ花の巻、尾思いあうの

名さうのいふれくあ世えよま行こ

夫 不きまのよめ朝をさし西のさしあふ

、とまきまのねあをたてあふ同財を月とまき

、彼岸のまきうらめあふくさう

川上、きり川、恒、巻、作大野、
宮橋の、藤井、粟津の、くろ、志矢、
虫、庭、野分、軒、麻、知山、
岩代

夫、あつたのちうちのひし、終るなり、松又これ、
、羨る、野分の冬う月、陸子、鹿、ほ、ま、る、手

一、鷗 カヤクキ 秋香

夫、高長に、おと、ま、り、登、り、て、尾、高、の、事、四、八、の、海、京

一、鎌 くとよあまの、う、ま、ご、の、多、岐、し

、ま、の、の、草、刈、ま、の、の、よ、し、世、は、遠、く、い、の、ま、り、

一、金 うゑとよいとの朝を、兼、同

●金の事、松、取、抄、と、く、り、楚、舞、う、て、西、土、
う、も、麻、勝、の、洲、あ、り、海、津、吉、保、傳、の、言、の、金、に、乳、
祝、詞、を、唱、わ、れ、た、ま、呼、び、山、川、動、搖、す、と、い、

一、電 日事、死、和、名、抄、ハ、ク、多、と、よ、あ、り、は、も、
以、を、や、さ、な、庭、や、ま、の、電、や、ま、

と、い、ふ、●ひ、ま、ど、く、よ、あ、り、の、電、所、の、多、岐、し、
為、或、帳、ハ、く、多、岐、と、い、

、電、の、と、い、は、ら、う、を、山、の、名、も、煙、と、い、は、ら、
、ニ、い、ふ、電、の、の、ま、り、て、い、れ、煙、立、面、の、多、岐、と、い、

○湯筑 區、訶、陀、智、ク、ガ、リ、能、ノ、名、陀、智、ハ、役、名、ノ、意、
ナ、リ、ト、云、ハ、筑、ノ、居、テ、探、湯、ノ、口、サ、リ、應、神、記、允、恭、記、亦、見、
ハ、ル、允、恭、帝、御、時、井、樽、ノ、岳、ニ、シ、テ、探、湯、ヲ、シ、テ、ト、云、

一、雞 万葉、舟、と、よ、あ、り、日事、死、和、名、抄、ハ、ク、多、と、よ、あ、り、は、も、
か、の、の、鳴、と、い、は、ら、恒、馬、車、と、い、は、ら、

ろ、と、い、は、ら、と、い、は、ら、の、鳴、を、と、い、呼、ぶ、名、を、り、
衆、野、の、名、と、い、は、ら、

、使、々、使、々、と、い、は、ら、

一、かげろふ 陽炎、蜻蛉、蜻蛉、これ、あ、り、
陽炎、い、は、ら、蜻蛉、い、は、ら、

と、も、先、い、は、ら、蜻蛉、の、鳴、と、い、は、ら、

笹ノ田、山田、片麻、火号、田川、

夫、雷遠く好山のなす所、冬の水のまきまれば、
去井の是の火の清きと雖も、やれぬ板の厚、
之處、使われいささか、
夫、
石櫃、瓦櫃

一、梯

子に、とよ、懸階の交、而、持造、
うり

○池、滝、江、淵、霜、山、信、紫、人、
血、米、道、少、人、古、駒、山、吹、
橋、上、百、段、夕、日、雁、雪、花、
山、揚、戸、谷、木、首、猿、布、夏、長、山、
小、坂、中、土、子、冬、明、只、山、木、の、こ、
山、川、知、花、小、倉、山、花、旅、人、鴉、
鵲

京、
夫、陸、の、ま、此、時、初、め、の、や、で、井、の、ま、の、機、
夫、
志、所、の、路、や、谷、の、梯、や、ま、ま、や、な、ぬ、ま、は、本、居、梯、

夫、や、迷、小、の、機、と、信、十、を、流、は、こ、よ、の、中、心、
一、五、三、五、の、機、の、ほ、ろ、と、ま、の、ゆ、の、火、向、く、
こ、い、華、夜、の、出、さ、し、
ち、る、者、つ、ろ、山、の、屏、さ、
機、を、り、り、油、吹、枝、の、凡、

一、かけお

腰、こ、ぞ、む、あ、り、く、り、こ、
入、て、お、震、雜、要、懸、子、と、し、
馬、が、
こ、い、ま、
こ、い、ま、

一、禿

こ、ろ、と、よ、の、髪、振、の、多、
童、州、禿、鬘、を、よ、
時、三、百、人、の、禿、あ、り、足、怪、の、こ、
多、能、の、百、使、を、
禿、筆、と、し、
禿、兼、る、と、ま、す、く、て、よ、
禿、兼、る、と、ま、す、く、て、よ、

一、水手

こ、と、ら、い、の、鹿、子、の、あ、り、橋、
の、鹿、子、水、門、と、因、多、こ、
詳、子、
一、鹿、子

一 饒

かきうのまろともよめう 文鏡と
よ川流のくまや

● 智る坊うのいさ鉄のぬし天子、未傍と
りい髪の一こ ● 智る馬日也、は馬飾馬
をもよめうの せ奥具をうし 版籠とてうい
沢降と別し 葉袋とてうも馬葉袋や ●
ひまうぐし 日中花 呼まめう 冠をたよふられ
飾律れぬし ● 葉菴葉連うまの位を
いふの冠をさしてするは 指のせも高とるふん
と侍るもこの名をとれり 聖具也 呼容
ともいふ

● のさうあろひはつ

○ 位持、一殿世、勒法、要隔、吉廻、

菅衣、三叶、比元、山踏、慕三人

山の奥よりほふまをなうし 花母の一と

一 衫

のさうとよめう 汗衫とよめういさ
汗取の服一りのほ、女童のい
かひいふあつあつ 織りう 唐の羽らうのいさ

あつとまりいさ

● 花のあつとまりいさ 花子か 花袴のむね院

● 花のいさこまのいさ 二月中旬の梅とていさ

又 風をまの梅とていさ 内ふさのいさ

一 挿頭

かきうとよめう 髪刺のむね院
康保三三月花宴友伊尹奉詔

折花挿頭とていさ 巨葉をうし 花

挿頭とていさ 種挿頭とていさ 花冠必有挿頭

花用とていさ 花也とていさ 花 芳絲花を

用の花子 花をぬ花とていさ 大幸金の

時 季の挿頭 浪の挿頭とていさ 天皇遣り

子 以御花 親挿頭之巾上とていさ 花子と挿

頭也 ● 花のいさこまのいさ 白羽の挿頭

よめうの挿頭 花の挿頭とていさ ● 花の

うし 花のいさこまのいさ 花のいさこまのいさ

花のいさこまのいさ 花のいさこまのいさ

花のいさこまのいさ 花のいさこまのいさ

花のいさこまのいさ 花のいさこまのいさ

●伊豆の集、柿の枝を多きん出さうとてこり
雨推響、柿房の肥大、不設臨、まきまき、柿原
山柿のこるまきあり ●西陽雜記、柿樹、鳥の巣
すーとせのこ

○殿、軒、骨、霜、百葉、香、香、香
萩、鳴、園、堂、鳩、丸、時、馬
例、芦花

花守、柿のこるまき、まきまき、まきまき、まきまき
花守、柿のこるまき、まきまき、まきまき、まきまき
花守、柿のこるまき、まきまき、まきまき、まきまき

一垣

●神社、宙庵、た、秀、亭、痛、葛
とほり、柿、水、小、木、垣

山吹、兼、虫、萩、萩、虫、香、桂
株、木、産、妹、香、香、香、香、香
夕、存、煉、杜、芳、矢、野、中、香、香
小、萩、原、田、福、萩、山、麻、山、里
香、香、香、香、香、香、香、香、香、香
桂、外、苑、名、香、香、香、香、香
月、沼、香、香、香、香、香、香、香、香
相、波、更、園、口、菜、香、香、香、香、香
香、香、香、香、香、香、香、香、香、香

夫の香、香、香、香、香、香、香、香、香、香
夫の香、香、香、香、香、香、香、香、香、香
夫の香、香、香、香、香、香、香、香、香、香
夫の香、香、香、香、香、香、香、香、香、香
夫の香、香、香、香、香、香、香、香、香、香

一 籬

訓澤、赤の部、むら
架し同、籬の一名也

●梅、櫻、萩、萩、橘、馬、馬、株、
松、庭、池、山、柳、花、落、野、辺、
雪、菜、竹、柘、梅、子、山、重、葉、
庵、反、馬、蓬、霜、菖、丸、柳、
山、吹、立、田、川、毛、房、和、色、小、田、
菟、白、鹿、鹿

古くは昔のまね山とて言へりよ、
こゝ花山ふ人のまねてく夕さう、
と花よよありうらうらふより、
月しくさうさうとて、
山重と申す、
庵多あり死ほや、
夫、
天、

後、
唯後

一 鍵

鑰もくはとあり、
こののの、
ふの、

一 花押

カキ、
うたんとてり

一 亀

うめしよあり、
い、

江、
百、
吉、
川、
番、

左に神をとりて末裔のついでとて古の神よりついで
なりとてついでなりとてついでなりとてついでなりとて
ついでなりとてついでなりとてついでなりとてついでなりとて

一神風

久をとりてあり神風地のついでなりとて

●舟路、梅香、月晴、安忍、内も後川

●舟路、梅香、月晴、安忍、内も後川

●舟路、梅香、月晴、安忍、内も後川

一神代

●舟路、梅香、月晴、安忍、内も後川

●舟路、梅香、月晴、安忍、内も後川

一神垣

●舟路、梅香、月晴、安忍、内も後川

●舟路、梅香、月晴、安忍、内も後川

一上久

●舟路、梅香、月晴、安忍、内も後川

大津神宮の言垣とてし神宮とていふ事
いふ山寺以枝の年や、三の日は久きなり

一雷

惟若此かことあり 旱化万子の
の事多くとありてくことありと
とまの雷の事あり 四神とていふ事あり
伊のりちとていふ事あり

一十月

つとまの事あり十一日の極るれ
此月月の事ありとていふ事あり
の事あり 神宮の事あり 西土の神宮あり
十月の事あり 古記に神宮の事
あり 古記の事あり 大物主の神の事
万神を師して天子の事あり 神宮の事あり
事の流し 或は雷の事ありとていふ事あり

此の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり
此の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり

一祇園

此の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり
此の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり
此の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり

此の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり
此の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり
此の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり

一神退

神宮の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり
神宮の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり
神宮の事あり 神宮の事あり 神宮の事あり

一種の内より形色異あり。○大木おろし
 引子ある文とくさる世帯へのまゝ
 ●古事記に大所内ノ柏とあり極ノ一ノ大書
 今或、午日造内司ノ引給物神受内而欲
 乾神為變而拜と申●筆のことに即
 形あり●存柏水ノ柏老柏玉柏るとい
 存の一とて。●柏木ノ樺ノ同ノ厚式巻の
 名あり月々雪岩をまきくして右街の勢と
 柏木よりくまもよあり極ノ一ノ大書
 存とていふも申し大木おろしより良む
 存、依り多時柏木、後ノ下等と後引とて
 定本々の流と、赤の中川と、存、依り多
 柏木の
 とうりしものともありおれとて

○兎、雪、禁、社、納涼、平車野、
 奈良山、神山、ひびし、磐余の、萩
 時雨、尾山、呼、交也、雲、佐藤山
 木巻、山中、布多柄少の、雨、吉々
 恒、外面、扇、団、月、三笠山、杜
 高野神、扇、蓬、口机、巨圍、柵

酒、神代、虫養川、占、遠山本、麻
 行也、雞波江、とませ川、吉の川

西 平菊のあま柏の時流れを思ふ
 夫 君のあまのち山を柏代はよとて
 万 尊山のあまのりややゆとて
 夫 安のあまのりややゆとて
 不 柏木に思ふの沖にまきくして
 夫 神山の柏のあまのりややゆとて

古事記に大所内ノ柏とあり極ノ一ノ大書
 今或、午日造内司ノ引給物神受内而欲
 乾神為變而拜と申●筆のことに即
 形あり●存柏水ノ柏老柏玉柏るとい
 存の一とて。●柏木ノ樺ノ同ノ厚式巻の
 名あり月々雪岩をまきくして右街の勢と
 柏木よりくまもよあり極ノ一ノ大書
 存とていふも申し大木おろしより良む
 存、依り多時柏木、後ノ下等と後引とて
 定本々の流と、赤の中川と、存、依り多
 柏木の
 とうりしものともありおれとて

一 拍手

日吉神社、食膳膳夫をも此の如く
よあり古良良本家をもて器
とよよしヒラテ景盤クマテ筆梳折友をのたまふ

●ウタヒ衣冠同宴ウタヒするよいをも拍手成す 日吉社の
新室同宴の如き手掌やらくに拍上揚昔幸
世等とよよし神拍、拍手をもかいたまといひ
らるる成す 一幸雄器此二言に神もをも
拍もふありとよよし ●大和拍村アリ

○神社、神山、水雞、言ふ、祝子、

神言

夫 神の拍事も打つらうとよよし拍の録
神もまもあはせしとよよし拍の録

一 鯉

かゝとよあり舞もあう
とよありのね

●山の忠なるもあうとよよし水の流る
●雨をたの山木もあうとよよし陸のこ

一 櫛 カシキ

かゝとよありとよよし剃る電
梳てもやい 仲いなるもかゝとよ

とよありの花園をしやうとよよしとよよし又びん
●カシキ剃る電とよよしとよよし剃る電
●毎もかゝとよありとよよし剃る電
●剃る電とよよしとよよし剃る電

一 刺馬

うとよとよあり櫛もとよあり

●カシキ剃る電とよよしとよよし剃る電
●剃る電とよよしとよよし剃る電

一 傳

かゝとよあり丹字し刻もく
長服まうのはつとよあり

●カシキ剃る電とよよしとよよし剃る電
●剃る電とよよしとよよし剃る電
●剃る電とよよしとよよし剃る電
●剃る電とよよしとよよし剃る電

●カシキ剃る電とよよしとよよし剃る電
●剃る電とよよしとよよし剃る電

貝

ひしよめい散や和名物

くらの物産之類の多しと云ふ同貝とい

一物の名も多しと云ふ邦より甲々の物と云ふて

貝といふなり 海産物の多しと云ふ

なり和名世に貝常わと云ふなり

の類々の吟情をもて遊子の異託を侮るもの

多し海畔を築竹を越すに云ふ中なり

宜せ貝之類と云ふなり貝をいはして種

姓夫貝油の持見貝云云云々

花貝 梅貝 子種貝の傍種貝といふ形

の似たりと云ふなり

くひも作るといふと造るべきなり

昔物なり子種を云ふて貝をつくりては

貝といふなり 貝の名はくを中しと云

ち貝といふなり 貝の類はくを中しと云

貝の名はくを中しと云ふなり

よきの内のは子のこの物といふなり

くはくあり貝と云ふなり

● 俟貝、磯、丹川跡、内人、番子、日女

難波女、萱、菖蒲、出下、信吉、難波

美浦、天浦、吹上候、三陸江、玉、由松

● 山伏、赤糸、子系、与、空屋貝

● 俵貝、かき貝、とく貝、梅貝、小貝

油貝、多貝、在貝、鳥貝、梅堂貝

口貝、子種貝、赤貝、とく貝、花の貝

舟貝、うす貝、梅子の貝、皮すの貝

色貝、掌貝、板石貝、くも貝、鴨貝

抱玉、以心、志貝、恰、白貝、まじ

くも貝、物あ貝、あひ、くも貝、海貝

千代、いかに子種、あひ、くも貝、海貝

貝といふなり 貝の類はくを中しと云ふなり

貝といふなり 貝の類はくを中しと云ふなり

貝といふなり 貝の類はくを中しと云ふなり

貝といふなり 貝の類はくを中しと云ふなり

貝といふなり 貝の類はくを中しと云ふなり

貝といふなり 貝の類はくを中しと云ふなり

貝といふなり 貝の類はくを中しと云ふなり

貝といふなり 貝の類はくを中しと云ふなり

一鴨

鴨の属也。鴨は鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。

野鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。

○谷、尾、河、翁、月、田、次、浦、雜、
昆陽池、太の浦、比良、新井、
吉の川、夏、川、川、山、
池、地、江、太、川、
水、入、江、水、来、淡路、
廣、泉、川、中、音、川、
安、池、泉、川、福、舟、

鴨は鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。

一鷗

海、沖、遠、江、
志、砂、水、浦、
仲、津、附、谷、川、
愛、の、子、入、江、
磯、の、浦、夕、平、
松、舟、岩、

夫、谷の米、
鴨は鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。

一羚羊

松、花、松、花、
鴨は鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。

一加茂系

公、事、元、根、
鴨は鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。鴨は鴨の鴨也。

凡の夜は凡分の夜子

○おちりり おちりり おちりり おちりり

○おちりり おちりり おちりり おちりり

○おちりり おちりり おちりり おちりり

○おちりり おちりり おちりり おちりり

○おちりり おちりり おちりり おちりり

一 風薫 萩、梅、月、夕、外、
琴、くさ、くさ、くさの袖

一 かせぎ 古語於此、作持
又麻をくせるとよめり ○武雷神
みせきよのりし麻あまのくせきよのりし麻あまのり

玉 山あしきくせきよのりし麻あまのり

一 春日祭 二月上申日

○ 舞入、おもしろ、真作、霞歌、車

野田集、松、女、侯、蓮、大宮人、
枚、あしき、白糸

夫 蓮葉てまの山びんごう下使るうらり 兼昌
夫 蓮葉てまの山びんごう下使るうらり 兼昌

一 三則 渾又園をあらとよめり 側々の者
とんり 又川の者 古事記
為大便之溝尻下とよめりをあらとよめり 造つて香
篠を戻せりよめり万原の川隅とよめり

一 衣 ころもとよめり 敷皮をこし衣、
制する中、羊の皮をよめり
毛衣とよめり

○ 山信、蓮生中、山伏、雪山人、松、
まもる山、藤、つたの、くまれ、雪山

山あしきくせきよのりし麻あまのり
夫 何つてよめりおもしろの衣をあらとよめり
○ 古事記有る衣、製する中、羊の皮をよめり

○い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事
いれいひなる事とていふも亦木舟の「一」類なり
○雪山童子を麻皮とてさるる一は兼ててさる

一兼二 い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事

○い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事
○い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事
○い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事

一巫

○い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事
○い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事
○い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事

一棋子

○い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事
○い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事
○い一ともなわたりを衣に兼ててさるる事

